

日本水上競技聯盟機關雜誌

# 水泳

THE "SUIEI" OF SPECIAL PUBLICATION OF AMATEUR SWIMMING FEDERATION OF JAPAN

29  
1935

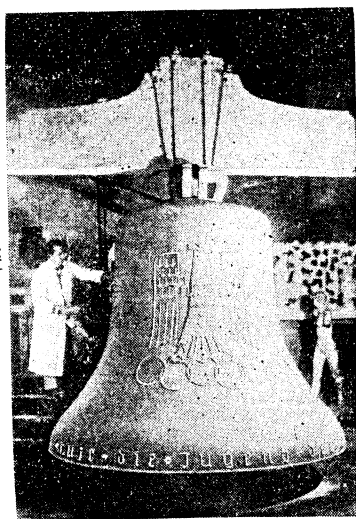


# 水泳

昭和十年・第二十九號

## 目次

全日本學生水上競技の全國的統制成立……	渡邊寛二郎 (2)
標準泳法を語る……	佐々木 救 (4)
一九三四年世界最高記録表……	(6)
新設プール紹介と短評……	(7)
現役選手に意見を聴く	
1. シーズンに備へて背泳の練習法……	河津憲太郎 (8)
2. 我國水球競技に對する一私見……	若山瀧美 (10)
3. 飛込思ふまゝ……	杉原雪夫 (12)
伯林ニュース……	(14)
濠洲轉戰記……	清川正二 (15)
南十字の島へ旅は續く……	坂上安太郎 (19)
まんろく集……	(22)
日本競泳發達史・布哇遠征の壯舉……	市村魁山 (23)
水泳地方色・横濱水泳協會を語る……	白山源三郎 (26)
昭和九年度飛込競技最優五傑表……	(28)
海外情報……	(29)
會報・NSR理事會、常務理事會議事録……	(30)



### 世界の若人に呼びかく

やがて、伯林の中空をゆるがせて鳴り響き、國々の血と誇となを搏ち合ふ若者達は、會場の指揮塔高く燦然とその巨體を仰ぐであらう—オリンピックベルは、此の程、同國の巨匠リルター・E・レムケ氏の手によつて完成された、その下部に銘して曰ふ「我は世界の若者を呼ぶ」と。

# 全日本學生水上競技 の全國的統制成立

全國學生水上競技聯盟主事

渡邊寛二郎

數年來の懸案だつたインターカレッジ統制問題、まるで星移り年變りと言ひ度い位に、學聯の總務委員、實行委員達は頭を集める毎に「君、なんとかならないか？ 何とかしなければ」で、是れまで機會を見ては關西方面との内交渉とか、顔合せが、今度こそはと言ふ近所まで來ては、いつか又その儘に立消えとなつてゐた事が、愈々昨年十月頃から急テンポに具體化し、末弘會長、松澤主事代理、N. S. R から田畑顧問、西本理事の御盡力を得て、實行委員に總務委員二名を加へて特別委員會を編成一路全國的統一を目指し、まつたく言葉通りの東奔西走、特別委員會を重ねる事十數回、遂にその努力も報いられて、茲に、全國學聯、關西學聯、東海學聯との完全なる提携成り、長年の宿案たる學聯組織の合理化、強化も一段落をつけ、昭和十年度は愈々東京に於て華々しく事實上の全日本學生水上競技會が開催される運びに成つた事は、事に當つた特別委員と共にその任務を成し遂げた喜びと、殊に學聯の將來一延いては水泳日本の將來を想ふ時その喜びは更らに大なるものがある。

尤も本年に於ける競技會は、其の第一段階であつて全國學生水上競技聯盟が主催して關西學生水上競技聯盟及び東海學生水上競技聯盟を招待する形であり、嚴密の意味に於ける全日本學生水上競技團體としての競技會は明年度即ち昭和十一年度より行ふ事となる。

尙理想案としては將來全國各地を十三地區(關東、東北、北海道、北信、東海、近畿、中國、四國、九州、臺灣、樺太、朝鮮、關東州)に分ち、各地域に學生競技團體を組織して全日本學生水上競技聯盟を結成する事が出来れば是れこそ日本學生水上競技の全國統一となるのであるが、現在では未だ理想であつて、實際上出來得ない事であるから、順を経て第二結成へと進みたいものである。

先づ昨年十一月に於ける東海學生水上競技聯盟及

び關西學生水上競技聯盟との交渉経過の報告をする、十一月中旬清川君の濠洲行きが決定して歸省される折、丁度好い機會として同君に東海學生水上競技聯盟側に對する第一次内交渉並に諒解役を依頼し同月十一日田畑氏の出馬を煩はし根來、安永兩實行委員と小生の四名が、東海側と打合せすべく名古屋に出發、東海學生水上競技聯盟の總務委員會に出席した。東海側では林年松主事、堀江耕造氏、瀬尾、後藤先輩、名古屋高商、岐阜藥專、岐阜高農、八高、三重高農、名古屋高工、濱松高工(彦根高商缺席)の七校代表者の出席あり、學聯組織改造問題の議事に入り、先づ東海學聯林主事より草案プリントの主旨説明の要求に對して、田畑氏より全國學生水上競技聯盟の創立より現在に至りし發達過程及び目下全國、東海、關西の三學聯によつて開催されて居る水上競技會の現状に就いて説明あり、更に是等の團體の全國的統一こそ全日本學生水上競技の組織の合理化であり、強化の所以である旨を述べ、具體的な競技會開催方法に就いて言及して東海側の賛同を求めた所、東海側としては主旨は素より賛成であるが、具體的な問題として競技會の開催方法に就いて昭和十年度は名古屋高商を除いて他一校、つまり二校インバウトして貰ひたき事を提唱し、それに對して承諾をなす。

尙豫選、本選等の開催期日の質問があり、豫選の期日に就いては全國大會一週間以前ならば適宜都合よき期日に開催される様決定、又八高より高等學校入場料問題の質問等あつて午後六時終了、次いで東海學生水上競技聯盟會長高松氏の晚餐會あり、午後十時東海學生水上競技聯盟の賛同を土産に歸京。

次いで關西學生水上競技聯盟との交渉に移り、當事者一同、東海學生水上競技聯盟の賛同に元氣を得是を機會に一氣に成し遂げやうとの意氣込みをもつて、十一月十五日、根來、入江、根上、大横田、市村五名の實行委員諸氏先發として下阪。

昨秋よりの内交渉による關西學生水上競技聯盟の

空氣は此の問題に少々難色あるやに見受けられて居つたが、在關西の藤田明氏、足立祐次氏、深山杲氏、石田恒信氏等、先輩のよき諒解のもとに斡旋、連絡のよろしきを得て心配してゐた關西側の空氣も非常に緩和されてゐたので、先發の實行委員諸君の活動も容易であつた。殊に關西學生水上競技聯盟の藤井會長が最もよき理解者として常に關東側の代辯者の様な立場で事をはかどらせて下された事は、此の合流問題の火急の大團結を得る上に預つて力あつた事と深く感謝してゐる。

十一月十六日、再び多忙中の田畑氏を煩はして小生と二人下阪。

十七日午後零時半より大阪美津濃樓上に於て藤井會長を始め關西學聯側各先輩、關西學聯實行委員諸氏と下打合せをなす。同日午後六時より大阪朝日新聞社會議室に於て、關西學生水上競技聯盟總務委員會終了後、直ちに合同協議會を開催し、關西側藤井會長、足立、藤田、石田、深山、大谷、井上の各先輩諸氏、及び關西大學、浪速高校、大阪高校、大阪商大、浪華高商、大阪醫專、關西學院、神戸商大、同志大、立命大、三高の十二校、各代表十五名の出席

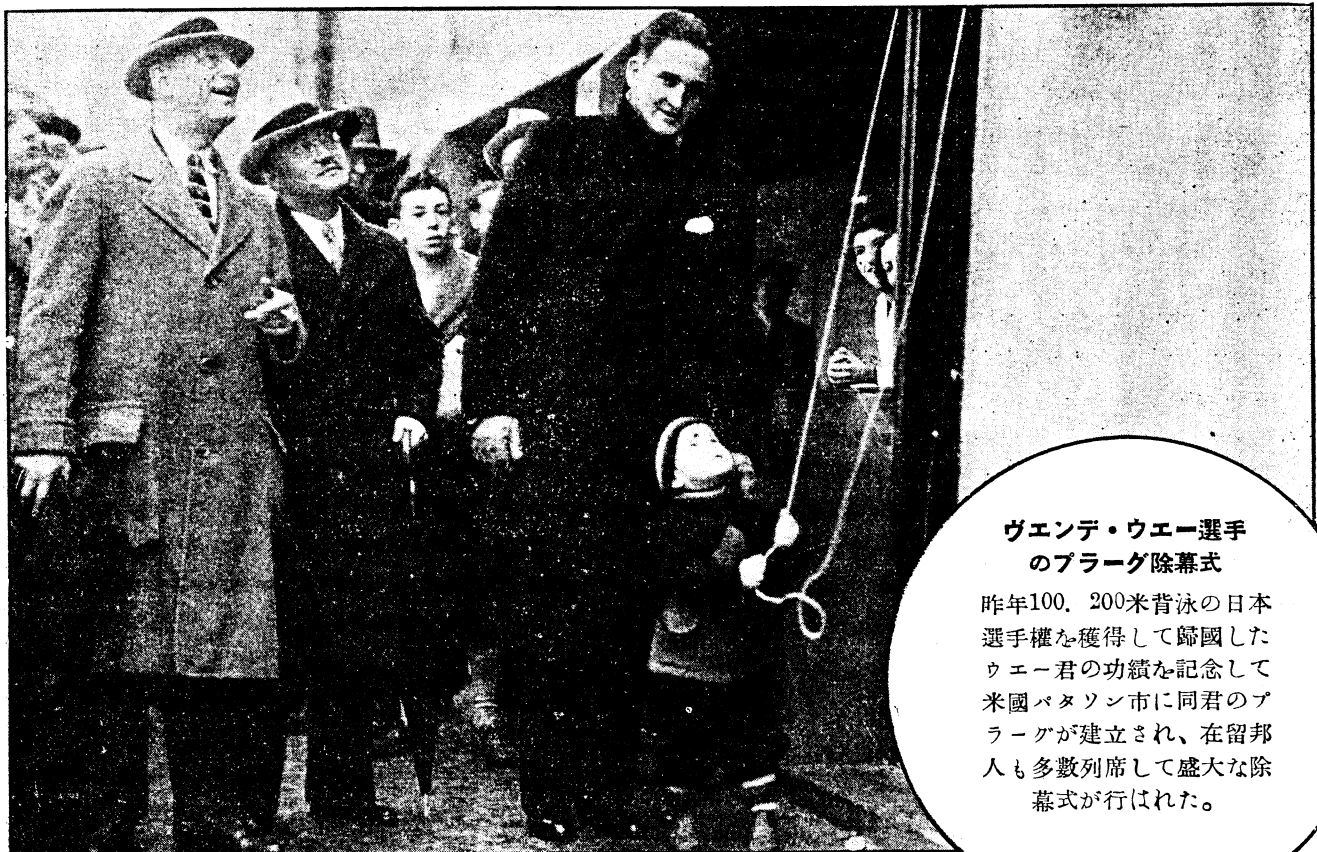
小生の開會の辭、次いで藤井會長の挨拶、直ちに議事に入りプリント草案に就いて意見の交換あり、關西側としては大體草案に對しては賛成なるも、關

西方面の地理的關係より昭和十年度のみは三校シードされた事、及新結成聯盟に就いての希望を述べられ種々質問あり。

田畑氏より、學聯のN.S.Rに加盟當事の事情及び嘗て全國學聯の神宮不参加問題の事情等より説明に入り、學聯は次の時代のN.S.Rであり、水上競技世界制覇の大計も學聯の大同團結による強化によつて初めて樹立さるべき所以を述べ、かゝる主旨に賛意を表さるゝ上は、それぞれ地方的事情もあるであらうが、大同團結に努力されん事の希望を述べらる。競技會開催方法等の具體的問題に就いて協議の結果昭和十年度の競技會は漸定的なるも將來は各學聯合同協議の上勿論永續性たらしむる事、尙ほ時期至來の場合に於ては關西、東海に於ても開催さるべき事となし、ボートの問題に就いては加盟校數の比例に依り、更らに競技の實力をも加味してボートを定め、シードされたる學校をも一票を持つ事とし即ち昭和十年度合同協議會までに各聯盟に於て充分研究をする事となる。

以上に依り相方覺書を交換し關西學生水上聯盟藤井會長全國學生水上競技聯盟主事渡邊兩者署名を爲し、午後十時圓滿終了となる。

以上、全日本學生水上競技の全國的統制の成立を關係諸賢に報告し且つ御禮申上げる次第である。



**ヴェンデ・ウエー選手  
のプラーク除幕式**

昨年100、200米背泳の日本選手權を獲得して歸國したウエー君の功績を記念して米國バタソン市に同君のプラークが建立され、在留邦人も多數列席して盛大な除幕式が行はれた。

# 標準泳法を語る

NSR 標準泳法委員

佐々木 救

水泳は娯樂として、また生活上の必要から、何處の國でも古くから行はれて居たことと思ふ、特に我國では、夏極めて暑い氣候と四面海の地勢的影響で、他國より一層盛に行はれたことと思はれ、中世に至つて水軍の一部として軍用の目的で研究發達し、徳川時代には主に藩侯の保護の下に、諸所にその地の水勢に應じて數多の流派を生じ、各々主張を異にしてその傳統を重んじてその技術を傳へたが、明治の御世になつて時勢の變遷と交通の開けた爲に、各流派の地方別が漸次消えて、特に東京では大川べりに諸流派の水泳教場が軒を並べて繁昌し夏の娯樂は専ら泳ぎといふ有様になつた、加之水泳は體育上また護身上心得べき事といふので益々一般に普及され、全國的に隆盛になつて來た。

大正の御代になると國際オリンピック競技の刺激で競泳中心の水泳が勃興し始めたのである。

二十數年の昔、吾人のレコードが世界のレディスレコードにすら及ばなかつた頃、末弘先生その外の先輩達は少なくとも水泳だけは近い將來、きつとオリンピック競技で優勝し得ると達觀し、爾來この信念による熱心且つ適當な指導の下に諸選手の精進と猛練習によりロスアンゼルスの実を結んだことは誠に愉快なことである。

偕て、現今の水泳は若い人の血を躍らせる競泳競技中心の水泳であり、將來の水泳も亦然るべきであると思ふ。

然らば競泳競技以外の水泳、即ち一般の娯樂的水泳、所謂海水浴及び傳統的藝術的な各流派の水術(これ等を急速を主眼とする競泳に對して假りに靜泳といふ)は從來よりは衰へて居るのであらうか、又は衰へてもよいのであらうか？

局部的には隅田川の水泳教場が工場の汚水に追はれて退却したといふ様なことはあるが、全國的に見れば靜泳も亦益々盛になつて來て居る、この原因は種々あらふが、つまりは競泳競技の急速な發達に刺激されて、一般世人に水泳の本質の長所が認識されて來た爲と云へよう。

下手な例へ方だが競泳、水球及び飛込競技を陸・海・空軍とすれば野島、觀海、神傳、向井、小堀、

水府及び山ノ内等の諸流水術や水上救助法等は、法學・理學・工學及び醫學等の學問や藝術であらふ。軍部が強くなるのは富源の開發や科學の進歩發達が基礎であることは云はずもがなである、この兩者の調和が必要である、跋では永く國家の繁榮は續かない。水泳の隆盛は競泳競技と諸流水術の發達だけでは足りない、學者と軍人だけではどうにもならぬ。大衆をどうする、思想の善導と常識の向上をはからねばならぬ。標準泳法の生れたのは此處だと思ふ。

標準泳法は水泳の小學校である、國民皆泳である、これだけは心得置くべしとの意味の水泳である、正しい泳ぎの基礎を教へるのである。泳ぎを上達させる點まで行かふとするのではない。従つて難しい諸泳法の細い點よりは水に對する正しい心得を重んずべきことと思ふ。競泳競技に邁進するものも、諸流泳法を研究するものも娯樂のために泳ぐものも、標準泳法を通して正しく進み得るのである。

水泳の一般普及といふ考へは遠く三十年前から芽生へて居た、即ち高等師範學校では明治三十六年以來房州に水泳場を設け、體操科の生徒に對しては水泳を柔道や劍道と同様に取扱つてこれを教授して居り、このため全國の中學校で高師流の水泳が可成り行はれて居る。

從來の學校水泳は殆ど例外なしに趣味をもとした事情境遇のゆるす希望者だけの水泳であつたが、近年プールの設備が出来る様になつて生徒全部に水泳を行はしむる學校が追々現れて來た。試みに小學上級生や中學及び高等女學校一年生、二年生に水泳を望むや否やを問へば、身體に故障のないものは先づ例外なしに水泳せんことを熱望するものである。

一方文部省では昭和五年に水泳指導者講習會を開催して水泳の普及を計る事となり、その後この講習會は日本水上競技聯盟が引受けて毎年行つて居る。斯ういふ氣運に醸されて標準泳法は生れ出たのである。標準泳法によつて水泳普及の正しい筋道が示されたのである、道がわかつたらば案内しなければならぬ。草鞋がけの道案内がこれからの大役である。

先づ標準泳法を教へる時期は小學校の上級生、中

學校及び女學校の一年生時代が最も適當と思ふ。

小學校の下級の少年少女は水を樂むばかりで泳ぎを習はふとする氣が少い、あまりに無邪氣である、加之體力も抵抗力が充分でない。小學校五六年生から中學校一年生になると、體質も抵抗力を増し、筋肉、運動神經もある點まで體操等によつて訓練され、加之そろそろ慾が出て來るので進歩も速であり、且つ注意や心得も守る様になつて危険な事故も少くなり萬事好都合である。

それではどんな様にこれ等の少年少女に教へたらばいゝだらうか、こゝに参考のために一つ二つ例を擧げて見よう。

先づ茨木中學校は御承知の通り杉本傳氏の御指導で文字通り全生徒皆泳である、同中學校の水泳史と杉本氏の熱心に依つて他では仲々眞似の出來ない充分の練習時間を持つて極めて組織的に行はれるのである、其概略を示せば次の様である。

先づ一年生全體に泳ぎ得るといふ自信を興へるのである（一般の中學校女學校では凡そこれだけ出來れば略目的を達したものと云へやう）。一年生を全く泳げぬもの、20米やつと泳げるもの、相當泳げるもの及び200米以上泳げるものゝ四班に分ける。學年始めには全然泳げぬものが半數以上に達するが、その年の秋には病人以外全部泳げぬ様になつて20米泳げぬものが全體の2—3%で大部分は200米以上泳げる様になる。その指導方法は、學年の始めに運動場や柔道場等でクロール、平泳、扇足及び伸泳等の腕や脚の動作や呼吸方法等を立位臥位等で何回となく練習せしめ、一方水に慣れる爲の練習を行ふ、即ち五月初め水溫二十度に達すれば、一週間位毎日一分づゝ、次の一週間が五分づゝプールで水慣しを行ひ、而して六月の初めから深さ1米の初心者練習場所で泳ぎの型の練習を三十分づゝ行ひ。七月中旬夏休みの始まるまで毎日放課後約一時間づゝ練習せしめ、それまでに200米泳げぬものが約三割残る、これ等の生徒は更に七月末まで毎日泳ぎの補習を行ふので九月には200米泳げぬものが一割位に減じる。九月中旬水上運動會を行つて各學年對抗の三十人組1500米のリレー競泳等があつて競泳選手の選擇機會とする。

次は湘南中學校の例である。この學校では御大典紀念に昭和五年夏休から同年十一月終りまで、校長始め職員生徒全體の勞力奉仕の汗と力で長さ25米、巾13米のプールを建設し、昭和七年の夏からは全校生徒皆泳を目標として全生徒に水泳を教へて居る。水に對する心得と泳げぬものを無くすることを眼目

として居るので一年生には特に重きを置く、而して練習は放課後行ふのではない、六月下旬より學期試験の直前まで及び試験後夏休みまで約二週間、及び九月初旬數日間正科の授業時間をさいて行ふのである。校醫の診斷により水泳不適と認めらるゝもの以外の一年生はすべて泳ぎを熱望する。指導の概略は、一年生に就て云へば練習初めの日に、水に對する注意、プール、海水浴場及び川等での心得、衛生上の注意及び疲勞對策等を訓え、次でバタ足、押手及び息合等の説明をなし、水中にて數分間練習させる。二日目からは水中の練習時間を漸次増し、犬掻き、クロール、伸泳及び簡単な飛込等を重要項目として漸次説明指導する。全然泳げぬものに重點を置く一方熟達者の指導も忘れてはならぬ。始めの數日間で大部分數米泳ぎ得るに至るのでこの數日間は各時間一組（四五十人）づゝ、その後は二組或は三組同時に練習させる。七月末には10米位泳げぬものは僅少であり、九月になると25米泳げぬものが百五十人中數名となる、弱體者或は特異のもの一、二名を除いて浮かぬものは先づなくなる。上級生は三組づゝ時には六組まで同時に練習させ、泳法・飛込・潜水・救助法心得等を教へる。

各時間主任指導者の下に各組の授業擔任の先生方が助手として監督される。水泳練習の前後の點呼等事故防止には最大の意を用ひる。生徒からは無論父兄の信頼が第一で技術は第二である。

偕て授業時間中の水泳練習の學課等に及ぼす影響を考へて見ると。他課目授業の減少、睡くなるもの、耳を痛めるもの、負傷等の故障を考へ得るが、一方安全に常識としての泳ぎを覚え、身體の鍛練、緊張による能率の増進等の利益大なるものがあり教育の目的に適ふものと確信する。放課後の全生徒の練習は特殊の場合の外實行できないと思ふ。

猶他の中小學校で體操等の授業時間に水泳を行ふものが漸次増加の様である。水泳は早晚多數の中學校及び女學校の授業課目となすべきものと信ずる。自然の水面を練習に利用し得る學校は少數である、一般にはプールの設備の普及が必要である。一方指導者の養成がこれに伴はねばならぬ。師範學校で水泳を教へることは大切なことであるが師範學校のプール設備は經濟上の困難が大であるからこの點からだけでも實現は仲々困難である。

學校以外の水泳普及も亦大切であるがこの方は概して標準泳法より程度の高いものが要求されることゝ思ふ。

國民皆泳の夢が見たい。

# 世 界 記 録 表

— 1935年1月1日F.I.N.A發表 —

## 男 子 競 泳

## 女 子 競 泳

米制種目	分秒	人名	國籍	月日	水路
100米自由形	56.8	P.Fick	米	34. 3. 2	25碼
200米自由形	2:08.0	J. Weissmuller	米	27. 4. 5	25碼
300米自由形	3:24.4	J.R.Gilhula	米	33. 8. 3	25碼
400米自由形	4:46.4	牧野 正藏	日	33. 8.14	50米
500米自由形	5:57.8	J.Medica	米	33. 6. 1	25碼
800米自由形	10:01.2	牧野 正藏	日	34. 9.16	50米
1000米自由形	12:41.8	根上 博	日	34. 8.12	50米
1500米自由形	19:07.2	A.Borg	瑞	27. 9. 2	50米
1609米自由形	21:06.8	A.Borg	瑞	29. 1.21	55碼
800米リレー	8:58.4	日本チーム		32. 8. 9	50米
<small>宮崎康二、遊佐正憲、豊田久二、横山隆志</small>					
100米平泳	1:12.4	J.Carttonnet	佛	33. 2.24	25米
200米平泳	2:42.6	J. Cartonnet	佛	33. 2. 8	25米
400米平泳	5:50.2	E.Rademacher	獨	26. 3. 9	25碼
500米平泳	7:33.1	P.Schwartz	獨	33. 1.22	25米
100米背泳	1:08.2	G.Kojac	米	28. 8. 9	50米
200米背泳	2:32.2	G.Kojac	米	30. 6.16	25碼
400米背泳	5:30.4	清川 正二	日	33. 9.30	25米

米制種目	分秒	人名	國籍	月日	水路
100米自由形	1:04.8	W.DenOuden	和	34. 4.15	25米
200米自由形	2:28.6	W.DenOuden	和	33. 5. 3	25米
300米自由形	3:58.0	W.DenOuden	和	33.10. 8	25米
400米自由形	5:16.0	W.DenOuden	和	34. 7.12	25米
500米自由形	7:12.0	H.Madison	米	31. 4.25	25碼
800米自由形	11:44.3	L.Kight	米	33. 7.23	55碼
1000米自由形	14:44.8	H.Madison	米	31. 7.19	55碼
1500米自由形	23:17.2	H.Madison	米	31. 7.15	55碼
1609米自由形	24:34.6	H.Madison	米	30. 7. 3	55碼
400米リレー	4:33.3	Holland		34. 4.14	25米
<small>Selbach, Timmermans, Mastenbroek, den Ouden</small>					
100米平泳	1:24.6	C.Dennis	濠	33. 2.14	33 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> 碼
200米平泳	3:00.4	前畑 秀子	日	33. 9.30	25米
400米平泳	6:24.8	前畑 秀子	日	33.10. 1	25米
500米平泳	8:03.8	前畑 秀子	日	33.10. 1	25米
100米背泳	1:16.8	R.Mastenbroek	和	34.11.25	25米
200米背泳	2:50.4	Ph.M.Harding	英	32. 9.19	25碼
400米背泳	6:12.4	Ph.M.Harding	英	32.12. 5	25碼

碼制種目	分秒	人名	國籍	月日	水路
100碼自由形	51.0	J.Weissmuller	米	27. 4. 5	25碼
220碼自由形	2:09.0	J.Weissmuller	米	27. 4. 5	25碼
300碼自由形	3:06.8	J.R.Gilhula	米	33. 8. 3	25碼
440碼自由形	4:48.6	J.R.Gilhula	米	33. 9.21	25碼
500碼自由形	5:26.6	J.Medica	米	33. 6. 1	25碼
880碼自由形	10:15.4	J.Medica	米	33. 7.16	55碼
1000碼自由形	11:37.4	J.Medica	米	33. 7.29	55碼
800碼リレー	8:38.8	Yale University	米	34. 3.13	50碼
<small>N.D.Hoyt, R.F.Corroon, R.W.Wilson, D.J.Livingstone</small>					
200碼平泳	2:25.6	J.Carttonnet	佛	32.12.14	25米
150碼背泳	1:37.4	G.Kojac	米	32. 3.31	25碼

碼制種目	分秒	人名	國籍	月日	水路
100碼自由形	59.8	W.DenOuden	和	34. 2. 4	25米
220碼自由形	2:27.6	W.DenOuden	和	34. 5. 5	25碼
300碼自由形	3:38.4	L.Kight	米	33. 4.20	25碼
440碼自由形	5:31.0	H.Madison	米	31. 2. 3	25碼
500碼自由形	6:16.4	H.Madison	米	30. 3.16	25碼
880碼自由形	11:41.2	H.Madison	米	30. 7. 6	55碼
1000碼自由形	13:23.6	H.Madison	米	31. 7.17	55碼
200碼平泳	2:49.5	E.Jacobsen	丁	33.10.15	25碼
150碼背泳	1:53.4	E.Holm	米	32. 1.17	25碼

■印は鹽水記録 プール名は都合上省略

# 新設水泳場 紹介と短評

京都府立京都第一高等女學校屋内水泳場

(公認第三十五號・甲種)

●写真説明● 上より 出發臺側より折返臺側を望む  
屋内プール建物外觀 折返臺側より出發臺側を望む  
下圖左 左側脱衣所 右側シャワー 下圖右 ボイラー室

## 設計概要

競泳池 長さ25米 幅9.24米 水質 淡水  
水路數6(但し水路の幅2米として4ともなし得)  
水路幅 1.5米、兩端水路1.62米(但し、水路數4と  
したる時は2米、兩短水路2.62米)  
水深 1.2米—1.5米 出發臺高さ0.42米

脱衣場、ホール、風呂場、シャワー、物入、便  
所は出發臺より向つて左側(正面入口側)の地階に  
あり正面入口より階段を以つて通ず。ボイラー室  
は出發臺側の地階にあり。

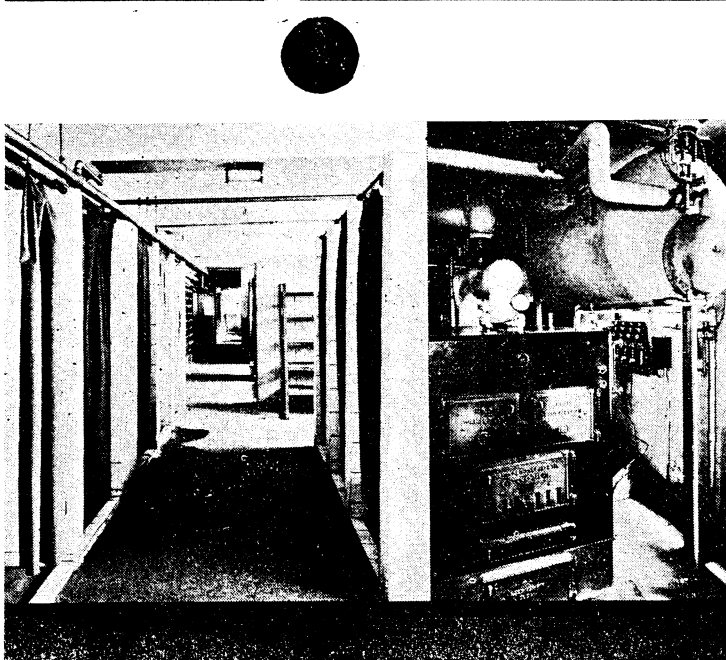
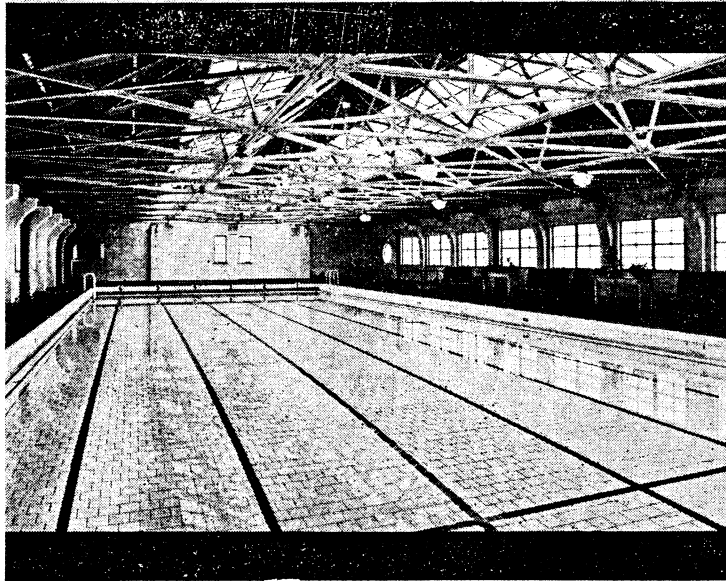
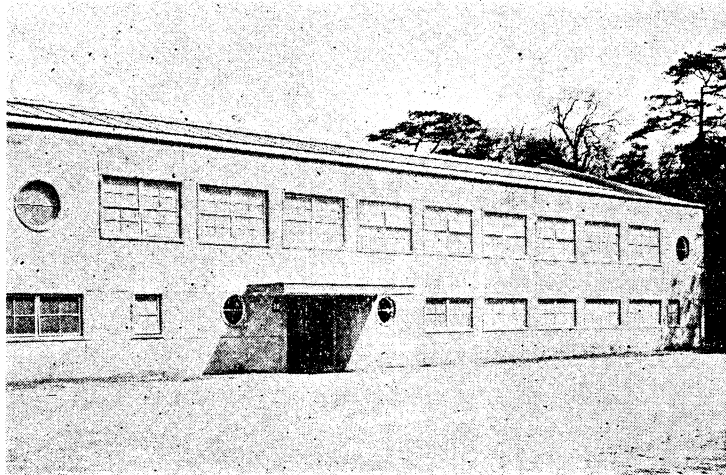
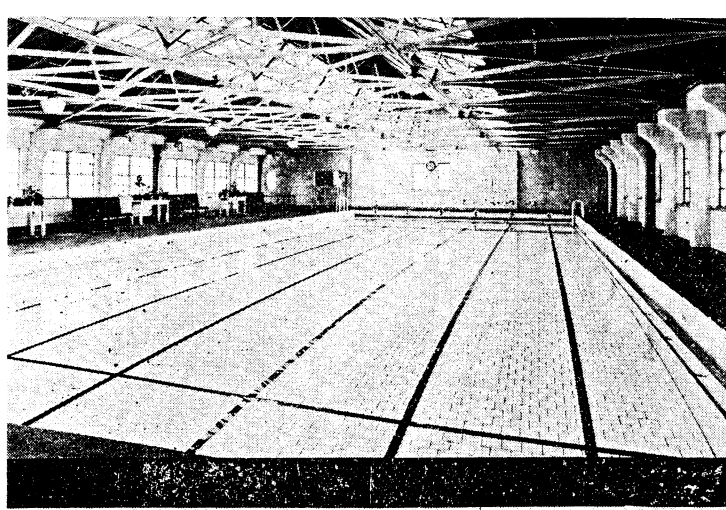
以上の諸設備を以つて獨立せる屋内プールとし  
ての建物を構成す。

## 設計短評

従來の屋内水泳場は何れも建物の一部にしつら  
へてあるインドア・プールであつたが、獨立の屋  
内水泳場——言換へれば水泳場及びその附隨設備  
だけをもつて、それに屋根を覆つた一つの建物と  
しての屋内プールは、此の京一女水泳場が最初で  
あり、その點先づ一つの特色とも言へやう。

更に此のプールの持つ大きな特徴は、その設備  
の設計が非常に經常維持の點に苦心を拂つてゐる  
點である。細部の點を説明する紙面を持たないの  
は遺憾であるが、一例としてボイラーを粉炭の自  
動燃焼用のものを採用し、濾過装置も國産のもの  
を立派に活かして使用してゐる點など、殆んど屋  
外プールで要する一夏の經常費と同額位いの費用  
で維持し得る設備を施してある事は一つの特徴と  
して推賞に價するものであると思ふ。

兎に角、一女學校としてかかる立派な水泳場設  
備を持つ事、斯う言ふ水泳場で年中泳ぐ事の出來  
る女學生は誠に羨ましいと言ふ他はない。







現役選手に  
意見を聴く

1

## シーズンに備へて背泳の練習法

明大水泳部 河津憲太郎

今年のシーズンを前にして、私の今シーズンに備へての練習法を述べやうと思ひますが、それに先立つて一寸断つて置かなければならないと思ふ事は、以下に述べやうとする練習法が私個人の練習法であつて、必ずしも一般の人の参考になるかどうかは判らない事であつて、一般の初心者の手本になる様な練習法は、是は水上聯盟の指導の立場にある諸氏に理想的な練習法を確立して貰ふ事にして、私は自分の體を本とした、今の自分の環境の下に現在實行し様と考へてゐるシーズン前の練習法を書く事とする

私は背泳の練習法に就いては、次の様な考へ方を持つてゐる、背泳に於て足、手を強くする練習は素より必要であるが私はそれより先きに一番大事だと思ふのは手 足相互のバランス、更らにそれに呼吸を加へた背泳の調子だと思ふ。その何れの一つが大きすぎても小さすぎてもいけないのであつて、そうした背泳といふ物の総合的バランスを先づ第一に考へて、その考への下に手、足を強くする練習を行つて行くべきであると思つてゐる。もしそれを無視して、ピーチングのみによつて足を強くする練習をしても、その人は足を強くすることは出来るかも知れないが、必ずしも背泳を強くする事は出来ない、その證據として諸競技會に相當多くの足の強すぎる事

に禍されてゐる選手を見受ける事である。手もそれと同じ事だと思つてゐる。

背泳では手、足の強い事は一つの大事な要素であるが、それにもまして、大事なものは腰だと考へる、手足が強ければ強い程、手、足を連絡し、バランスを掌る腰は確り安定してゐなければならない。私は斯う言ふ考へのもとに自分の練習法を作り上げてゐる。

シーズン、オフ——十月、十一月、十二月、一月の間私はインドア、プールでは練習しない事にしてゐる（たまには體を洗ふつもりでプールに浸つてフラフラ泳いで見る事もあるが）、その間に私は他の運動、バスケット、ハンドボール、ランニング、などをやつて水からは遠ざかつて専ら體力を養ふ事を志してゐる、併しその間に私は絶えず頭の中でフォームの事を考へ續けて、前に言つた手、足、呼吸の相互關係の最もよきバランスはどうしたら生れるか、どうしたらビッチが上るか、どうしたらスピードが生れるか、来るシーズンには今年のフォームをどう改めて見るか常に考へてシーズンオフの間を過す事にしてゐる。

シーズン前の練習開始——在京の私は屋内プールに恵まれてゐるので練習開始は學年試験の終つた三

月の中頃から始める事にしてゐる、三月中頃より四月の初め迄は、専ら水に馴れる目的で屋内プールで初めは400米から、600米位まで氣樂に泳いで身體を充分水になじませる。此の期間も水に入る前は陸上で準備運動を充分に行つてから水に入る事にしてゐる。

四月に入つてから——と言つても別に劃然と區別するわけではなく、身體の調子が水になじんで來るに従つて、次第にフォームの矯正に取り掛かる。それはシーズン、オフの間に常に頭の中で考へてゐた背泳のフォームに對する考へ、——例へば手、足、呼吸のバランスの工夫、その他細部に互つた今年の自分のフォームの缺點に就いてその原因をつきとめ、その補正の工夫等——の實現を、此の氣分の新しい時、水に馴れ次第落着いた氣持でやつて見る、此の氣分の新しい時、シーズン、オフに考へて置いた抱負を實現して見ると言ふ事は私の練習方法の中で重要な役目を持つてゐるものである。ホームの矯正と同時にスタート、ターニング等のこまかい技術を餘裕のある氣持で練習し日に800米位まで泳ぐ、暫くするうちに昨年と同じ位の泳ぎの調子を取り戻し、絶へず工夫を續けながら四月を終り五月の中頃まで、斯うした屋内プールの練習を續ける事としてゐる。

五月の中頃からオープンで泳ぐ——オープンに出ても五月の中頃は仲々水が冷たいのでオープンの水

に馴れる爲の練習を一週間位行つて、水に馴れ次第インドアで作つたフォームと調子を取戻す事が出来る、それから愈々張り切つた屋外の本練習に移る、此の練習では泳ぎの耐久力を付ける事とスピードを生む事を主眼として、1000米位のロングを數く、時々スピードをつける爲にダッシュを行ふ。この時期に充分フォームをマスターし、力をつけ、確りした自信を得る様に心掛ける。

試合前の練習スケジュールに入る——本年は六月の上旬に日・明・立の三大學對抗があるので前に述べた屋外の耐久力とスピードを着ける練習期間は相當切りつめて効果を上げなければならない。それが一段落になると試合前の適當な時機を見計らつて試合前のスケジュールに入る。是は「シーズン前の練習法」に屬するものでないから、茲に申し述べる要はないかも知れないが、自分の思つてゐることを簡単に述べると、今の自分は中學時代の様に無茶苦茶に泳ぎさへすればどんどんタイムの上つた時と違つて無暗に泳いでも効果は上らないから充分能率的に合法的に考へて試合に最上のコンディションをぶつつける様に自分で豫定を立て、泳いで行く、タイムは一週間に二度、試合前になると多く25米、50米のダッシュのタイムを取る事にしてゐる。背泳は力の互角の場合などスタートによつて氣先を制する事が出来るので試合前には一同揃つてスタート・ターニングの練習を多く行ふ事にしてゐる。

### 河津君の練習法に就いて松澤・飯田兩氏の言

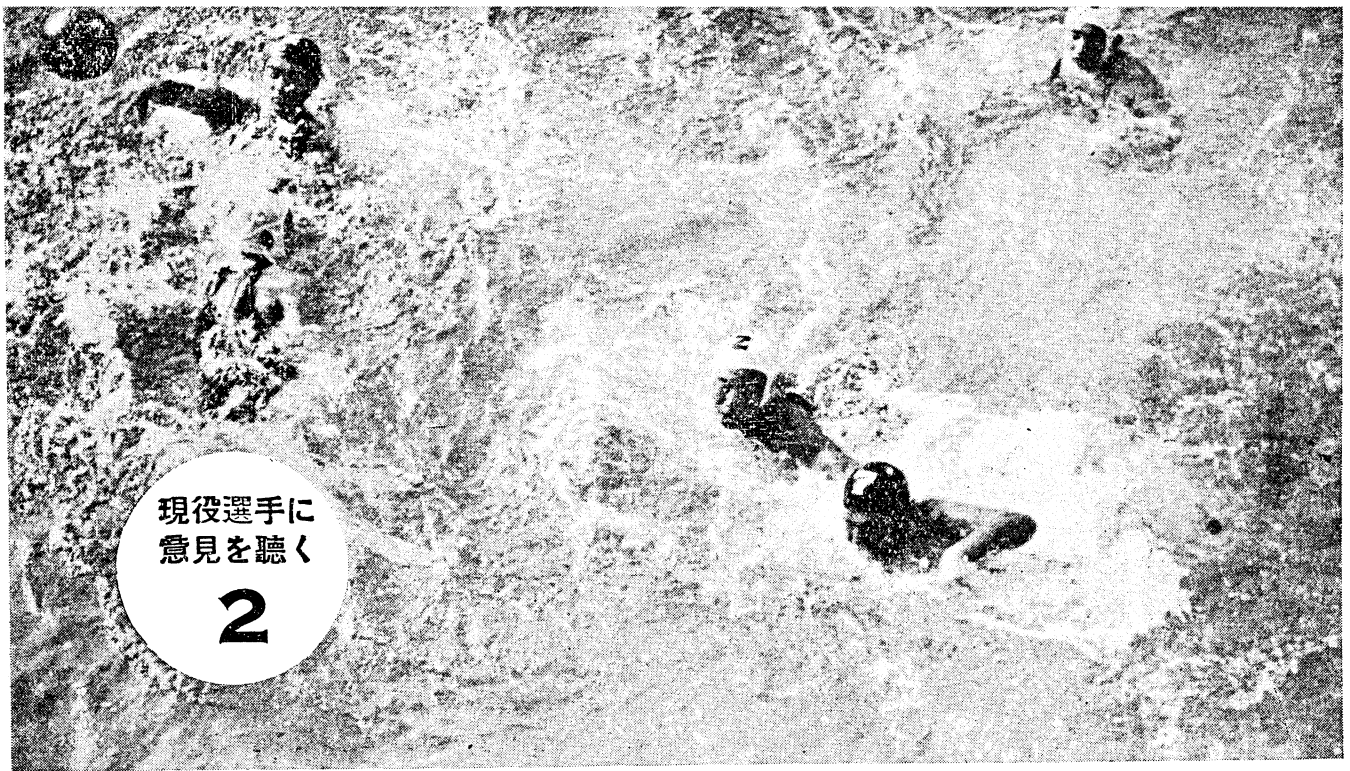
#### 松澤一鶴氏曰く

『成程、背泳に於て、先づ第一に綜合バランスを重へる、それを無視した手足の練習は許されぬと言ふのだね、河津君の言ひそうな事だ、併し背泳の場合はクロールと違つて確にそうゆう事が言へない事もない、確かにそうゆう見方もあると思ふ。實際現在の河津君のフォームを見てゐるとそれを如何にも明らかに物語つてゐる、あの河津君の足は實に素晴らしく見事な足の使ひ方をしてゐる、此の足の使ひ方のうまさは寧ろ河津君が先天的に持つ才能の様な氣がする、(フォームに於ても同じやうなうまさを見出す事が出来る)河津君にしてみれば他の人の様に無暗に足の練習をするよりそれを活かすバランスに一層苦心もし留意もして、そう言ふ独自の練習法を持つといふ事は河津君にして初めて許される事だ、しかし他の人は違ふ、殊に初心者には、矢張足のみ練習で引延ばし、手のみの練習で引延ばして行く練習法を取らねばならぬと思ふ。』

#### 飯田光太郎氏曰く

『だから、駄目なんだ、何んの運動でもそうなんだが出來上つたバランスを打破つて行かなければ進歩はない、現在のバランスを破るのを恐ろしがつてゐる様では駄目だ、背泳でも慧眼の指導者がゐて思ひ切つて現在のバランスを打破つて、足なら足をうんと強くさせて今度は他がそれに均合ふ様な更に大きなバランスを生ませる、それが一番大切だ、河津君にそう言ふコーチが居ないことは本人の爲にも氣の毒であるが、現在の練習方法は餘りに小バランスに安じ過る、もしその練習方法で行くなら、うんと練習してやつと同君の且つての好調時代を思ひ出す位のもので、それ以上は望まれやうがない。

丁度、昔日本泳法を僕達がサイエンステイツクに研究始めた時分そう言ふ事があつた。折角造つた泳ぎのバランスを崩される、指導者には考へがあるのだが、崩される方は判らないので實に口惜い、崩して置いて部分的にぐんぐん練習させて再び大きなバランスを作らせる、そこに進歩の大きな飛躍があるわけだ。當時末弘先生なども随分苦勞されたものだつた。此の點、今の日本の背泳に、否大きく世界の背泳にも殊に必要ではなからうか。』



現役選手に  
意見を聴く

2

## 我が國の水球競技に對する一私見

早大水泳部 若山 瀧 美

昭和七年、輝やかなしい水上日本軍の凱旋に際し、水球監督として藤田先輩は今後我水球競技の辿るべき道を以て荊棘の道であるとされたが、今日我水球競技は正にその荊棘の道を辿りつゝあると思はれる。

第十回オリンピック出場は五里霧中とさ迷つてゐた我水球競技に一つの手懸りを與へて呉れたことにより唯一の而も貴重な経験となつた。即國際競技に初めて接し水球に於る先進諸國が如何なる競技を行つてゐるかを知り且我水球競技のレベルを明瞭に認識することが出来たと云ふ事は多大な貢献をなしたと云ふべきであらう。

總べての方面に豊富な経験を得た我水球競技界はその後は等の消化を如何に行つて來たか。伯林大會を明年に控へての今年も貴重な一年であつて、現状の検討を試み來るべき戦ひに備へなければならぬ。

茲に私は現役として實際の競技にぶつつかかり乍ら切實に感じてゐる事を擧げてみたいと思ふ。幸にして検討に對する一助ともなれば満足である。

### 第一 水球の歴史の浅いこと

我國水球競技の歴史は未だ過渡期の域を脱してゐない。歴史は傳統となつて精神的に強い影響を及ぼし経験となつて技術や作戦を支配する。

傳統の精神が如何に競技に影響するかと云ふことは言を俟つ必要もないであらう。

浅い歴史の上に立つ我水球競技は普及の範圍が非常に狭い。従つて多くの試合を持つ事が出來ず経験

は少く技術作戦の進歩も必然的に遅れざるを得ない  
第二 國際競技を多く持てないこと

現在の我國水球競技にとつて國際競技を持てないと云ふ點は絶對的な不利である。何事も絶へざる刺戟と努力とが相俟つて進歩するものである。特に發展の過渡期にあるものとして善き相手を持てない環境にあることは水球の發展にとつて絶對的な不利な點と云つても差支へないであらう。これは競泳に於いても今日を築き上げる爲めには幾度か味はつて來た事である。然し乍ら競泳には記録と云ふ標準があるが水球はそれも持たない。従つて水球に於いては彼我接しなければ比較する標準は無いのである。

現在、我國水球競技は外國との接觸全然無く従つて刺戟を得る事も殆んど無く彼等に對抗し得る技術も作戦も研究する事は困難である。唯一の頼りは前回のオリンピックの経験であつてこの意味に於いてこの経験は我水球競技にとつて重且大なる意義を持つものである。然し只一回の経験を目標としなければならぬと云ふ事は絶對的に不利な點に相異なる。  
第三體格に就いて

水球は競泳と異り直接に敵と衝突して闘ふものであるから體格の差異は非常に影響の大なる事は明らかである。即ち體格による強引は或程度迄の技術の差異を壓へてしまふものである。であるから體格は重視すべきものであり偉大なる體格は水球に於ける根本的な必要條件である。

この事は前回オリンピックで彼我相接した時最初に得た貴重な経験であつて、日本人は水球競技の第一歩に於いて不利な条件にあるものと云はざるを得ない。事實上日本人の體格は現在では到底外人には及ばないものであつて今更急にそれを憤起して彼等と同等の體格の者を揃へようと思つた所でそれは無理な注文である。そこで、日本人はこの體格の不利を補ふべき他の特徴を見出さなければならない。

器用な日本人として彼等の模倣は易いかも知れないが彼等の技術は彼等の體力から生じたものであつて、その模倣では體力の不利を補ふことは出来ない。日本人は日本人の水球を作るべきであつて體格の不利を補つて外人に對抗するに適當なる水球を行はなければならぬ。

何れにしても水球に於いては偉大なる體格の持主によつてチームを組織しなくてはならぬ。然して更らに一步を進めて體格に應じて最も有効なる効果を表はす技術を養はなければならぬ。體格の不利を補ふべき技術は外人との對戦によつて最も速く又正確に見出す事が出来るのであるが、茲に於いても國際競技を持ってない不利をみるのである。

#### 第四 泳ぎに就いて

私は水球に於ける泳ぎの強さは絶對的な強味であると確信してゐる。

水球競技に於いてハンドリングが劣つてゐるに係はらず泳ぎの強さで試合に勝つと、まるで水球競技に反した勝利の様考へる人があるかに、見受けられるが、それは根本的な錯誤を犯してゐるものである。水球は水上の競技である。泳ぎが弱くて敗けたのは根本的な基礎の弱さで敗けたのであつて完全に立派な負け方である。泳ぎが弱いと云ふ事は水球チームにとつて根本的な弱味を意味するものであつて足の遅いラグビーチームと同じ事である。水球が水上で行はれる以上泳ぎは根本的な要素であつて泳ぎの強いと云ふ事は絶對的な強味である。勿論水球に於いてはボールワークも必要であるが先ず泳ぎが強いと云ふ事が根本的な要素をなす事を忘れてはならない。水球に於ける底力は泳から生ずる者である。

第十回オリンピック出場に臨み日本として泳ぎだけは何處の國にも敗けないと自信を持つてゐた。所がセンターボールさへ殆んどとれなかつたと云ふ事であるがこの事は何を意味してゐるものであらうか。日本として最も自信のあつた泳ぎは水球に於いては役立たないか、或は相手方が日本よりも強かつたかである。私は日本が泳ぎに弱かつたものと斷定する。成程一定の距離を泳げば日本チームは最も速か

つたであらうがそれは水球の泳ぎと競泳とを混同したものであつて日本チームは水球の泳ぎに於いて劣つてゐたのである。センターボールも取れなかつたと云ふのは勿論スタートも遅いと云ふ理由にもよるが水球の泳ぎと競泳の相異によるもので例へば足の速い者が必ずしもクォーターバックとして成功しないのと同様で競泳の強い事即泳ぎの強いとは限らないのである。

それでは水球の泳ぎの強さと云ふのは何かと云ふに矢張りスピードと耐久力とであつて競泳と變る所はないが競泳に於てはスピードと耐久力それ自身の競技であつて水を相手とするものであるが水球に於いてはスピードと耐久力を利用して球と敵を相手としなければならない。水球に於いては水を親類だと思へば間違ひは無い。日本人は競泳に於いては強いが水球に於いては泳ぎは弱いと云ふ事はないと思ふ。相手は違ふにしても水に對することは同じである。前回のオリンピックの経験で泳ぎを捨てるのは早計である。寧ろ日本は泳ぎの強さを特徴とすべきでその爲めには泳ぎに對する考へから出直すべきである。それはゲームを多く持つ事によつて慣れる事が必要であつて私は時間一杯暴れ廻るだけの強さが欲しいと思ふ。

#### 第五 テクニツクに就いて

器用な日本人にとつてテクニツクは最も得意のものとなるべきである。スタート・ボールワーク等個人技術に於いて現在の日本には末だ伸びる餘地を多く残してゐる。器用な日本人にして此の状態は研究と努力の不足と思はれる。研究と努力さへ拂へば充分に器用さを活かす事が出来るであらう。こゝに注意すべきは體力の不利により強引な技術は日本人にとつて不適當であることである。

#### 第六 タクテツクスに就いて

これに就いては本誌上に於いて時任先輩が屢々述べられてゐる事であつて私如きが意見を述べる迄も無いのであるが實地に行つて感ずる所を記せばタクテツクスは善きテクニツクによつてのみ其の効果を發揮する者であると云ふ事である。體力の不利を持つ日本がタクテツクスに依らざるを得ない事は勿論の事であるが現在の状態ではテクニツクのマスターが先決問題ではなからうか。

體格に劣る我國にとつては私は泳ぎの強さを活かして少しでも長く泳いで余裕を作る様な體形即フオーワードの動く範圍を廣くする様な攻撃體形が必要ではないかと思ふ。



現役選手に  
意見を聴く

3

## 飛 込 思 ふ ま へ

慶大水泳部 杉 原 雪 夫

最もよい飛込とは何であらうか。

それは、最も人に美的感動を與へる飛込である筈だ。それであつてこそ、他に感激を與へ、同時にダイバー自身、内心に深い、満足を感じる事が出来る。

選手自身楽しむ爲の飛込と、人に見て貰ふ爲の飛込とは決して異つたものでなく、同一物であらねばならぬ筈だ。

遺憾な事には現在の日本に於ては、それらについて、何等かの缺陷あることは否み得ないであらう。

例へば、飛込の競技會は、もつと美的雰圍氣を感ずべきものだらうし、練習は、もつと美的規律を以て行ひ得るものだらうと思ふのである。

吾々には已に、美的感動を生め！ といふ最後の目的だけは解つてゐる。是に如何なる方法で到達するかが、ダイバー其他關係者に與へられた問題で、それには、飛込界、水泳界の色々な意味での全面的努力と協力一致とによる他道はない。

そこで、それらの一端について感じたまゝの二、三を記させて頂かうと思ふ。

先づ吾々自身の飛込について考へて見よう。

吾々はおもつと落ち着いた、餘裕のある、大きく素直な、そして確實な飛込をすべきではないか。

吾々は果して眞の飛込の眞髓を掴んでゐるだらうか？ 吾々はおもつと力の流れを感じる様な飛込が見たいと願つてゐるが、是を満足させて呉るものが居

るだらうか？ 残念ながら嚴密にいへば一人も居ないのではなからうかと思ふ。

吾々は、實力を以て、世界飛込界の上位を占め度いと日頃から願つてゐる、それがどんな形で表はれるかは明年のベルリンで明示されるのだが、この希望を實現する爲には、現在の吾々は各自、技術的、肉體的、精神的に大なる苦行を覺悟しなければならない。例へば

一、體を作ること——適當な補助運動により、強健にして、均勢のとれた體を作り、ベルリンに備へては殊に耐寒的ならしむること。

一、俊敏な神經を養ふこと。

一、恐怖を除くこと。

タンブリングベルト及室内一米飛板を利用して細かく行き届いた神經を作ること。

一、鞏固な基礎の上に立つ、實力を有すること。

一、その爲には激しく撓まざる練習をなすこと。

一、かくして十二分の自信の下に、全力を發揮した競技をなすこと。

然しそれにはどんな基礎練習をやるか、どんなスケジュールを以て、練習するか、どうやつたら眞の飛込を掴まへるか、等の具體的事項については、定説がないといつてよい。

一體、在來の飛込研究の一大缺陷は、主に精神的の方面及び技術的の方面に論議が偏して、練習法、就中、競技の爲の練習法、團體的練習、練習の時間

練習の期間などいふ具體的方面については甚だ無神經に過ぎた様に思はれる。これは、飛込競技のもつ、個人的特質と未發達の現状に由來するものであらうが、かような具體的問題を研究し、直ちに實行に移すことが、目下の緊急事である。説ばかりあつて、實行者がいないのでは意味がない、よきダイヴァーと共に、それを助ける或は導く、よきコーチ、マネージャー、團體の必要な所以である。

コーチなる者はいかにも競技者を導く者であらうが、或る場合に於ては、ダイヴァーの意志と、創意工夫を理解尊重して、自分が教へると言よりも、ダイヴァー自身の考へを、整理し、これの發展を誘導するに努めた方がよい時がある。そして觀察は、精密に、科學的であるべきだが、説明は、大雑把通俗であるべきだ。

又競技者に就いて云へば、現在の通弊たる固過る氣分は、總ての競技者が直ちに改むべき點であつて、十分エンジョイし乍らも氣分の亂れない様に練習すべきものであるし、動作のポイントをもつと、一定して、確かに掴む事、力強く、然も素直な踏切をなす事、開始姿勢を樂に整へてタイムを掛ずにスタートする事等をもつと實行しなければならない。又批評家は、個人に對し悲觀的表現を弄した批評をなす事は、慎しむべきであると思ふ。例へば「あの男は、弱氣だから駄目だ」といふ様な事は言ふべきでない。眞に弱氣な人間であればこんな言葉を聞いたり、讀んだりして、發憤するものとは考へられない。「もつと強氣になれば、充分強くなれる」と言つてやつた方がよいのだ。すべからず、批評は、批評を受ける者を益するものでなくてはならぬ。

それから練習者として一言したいのは、練習場の事である。現在夏のシーズンに於ては、日大を除く他の團體及個人は、他に設備完全なプールがない爲神宮プールを使用してゐるが、この練習費が、一名二時間に付20錢、三十分毎の超過料金5錢づゝかかる。一日の練習時間量については、他に説もあるが、吾々の低い技倆を以て、あの混合ふ一つの臺を使用するのだから、少くとも五時間乃至六時間づゝはどうしても掛る。その費用、50錢乃至60錢。是が夏のシーズン約五ヶ月に亙つて、殆ど毎日翼が生えて飛んで行く、その額約七拾五圓一九拾圓。實に、ダイヴァーの經濟的負擔と言ふものは素晴らしい。どうして、是が問題にならないか不思議だと思ふのだが、このプールをこんなにも使用する選手達は殆ど飛込だけに限られてゐる爲問題が擴らないのだらうし、當事者の方々が色々骨折つて下さつても効果が

なく、結局、泣寝入りの現状なのだが、早晚何等かの方法によつて打解されねばならぬことゝ信ずる。實際、プールの使用費が一人につき七拾圓以上もかかるとは他に例を聞いたことがない、嘘みたいな話しである。

然し、この點を除いては、吾々は、あの神宮の飛込プールに感謝してゐる。あのプールでこそ、吾々は始めて、游泳者に對する危険を感じず、落着いて練習出来る、游泳者に對する不安が、どれだけ、飛込の技術の障害と成また飛込に對する反感とも成てゐるか判からないのである。あのプールで慾を言へば、水からプールの端へ上る時の臨時取付けの梯子が必要であると云いたい。これによつて、ダイヴァーの泳ぎの爲にかゝる時間と次の者のむだに待つ時間が省かれ練習時間がいくらかでも短縮出来る。

それにつけても、もつと飛込を普及させたいものである、質の向上は、量の増加に伴ふ競争によつてなされるものではなからうか。

飛込普及の爲には、觀衆がよりよく飛込を理解し好きになる様にしなければならないし、又一般に向つて、進んで競技會に参加せしむる様な機會を澤山作らなければならない。それには外國の名人を招んで來る事もよいし、競技會を解り易くする事もいゝ。初心者を又平易な競技から高度の競技へ導びく様々な競技會を催す事も必要だと思ふ。

即ち技術を伸す爲の段階の並に普及手段としての競技會が催さるべきであると考へる。

それらの一々について私案を持つてゐるけれどもあまり細かくなる故省略する。

兎に角、今夏はオリンピック第一主義で、手が廻らぬかも知れぬが、神宮競技其他の機會にどんどん實行すべき事と思ふ。インターカレヂ競技會にこの考へを採用するのも一案である。現在のインターカレヂ、中等學校の飛込競技の數量的不振も、この方法によつていくらか盛んならしむる事が出来るであらう。尙ほ飛込普及に缺くべからざるはその設備の完備せる事である、地方の諸團體宜敷、設備を整へられて、名選手を輩出せしめられん事を希望する。

さて今年の日本飛込界の進路は何か。

それは言迄もなく伯林目指しての唯一路である。

デイゲナーの本年度選手權競技参加は、その前哨戰として全ダイヴァーの待望する所。これを小手調とし、且、彼によつて學ぶ所大なるを期して、吾々は全力をオリンピックに集注し、輝やかしき成果を得て、水上日本の名を彌が上にも高からしめんと努力しつゝある事を一言してこの稿を終りたい。

# 伯林 ニュース

【同紙1934・12・21号より抜萃】

## 日本は驚異を 準備しつゝありや？

『日の出の國』に於ける運動競技の發達は數世紀前に由來するもので相撲・柔術・劍道の如きスポーツの形式は日本民族の民族的財産である。併し乍ら近代的スポーツは日本に於ては近々20年間の發達に過ぎない、日本アマター體育協會(?)が設立せられたのも1911年で、公認記録の登録は1913年11月に始まる。日本の代表選手が始めてオリンピック競技に参加したのは1912年のストックホルムの大會で短距離と長距離競走に2名出場しがたいつれも勝利には凡そ縁の遠いものであつた。當時、何人も20

伯林大會も愈々近づいたので、お膝下伯林の第11回國際オリンピック組織委員會は着々と進む準備の情報々、各國のニュースを彙集して『Olympic Games-News Service』なるパンフレットを發行してゐるが、本聯盟に到着した物の内、水泳及び日本に關係ある物を拾つてお報せするが、何分地球儀で見ても裏と表の間柄故、見當違ひの日本親もなくはないが、その點で却つて興味があると言ふもの、

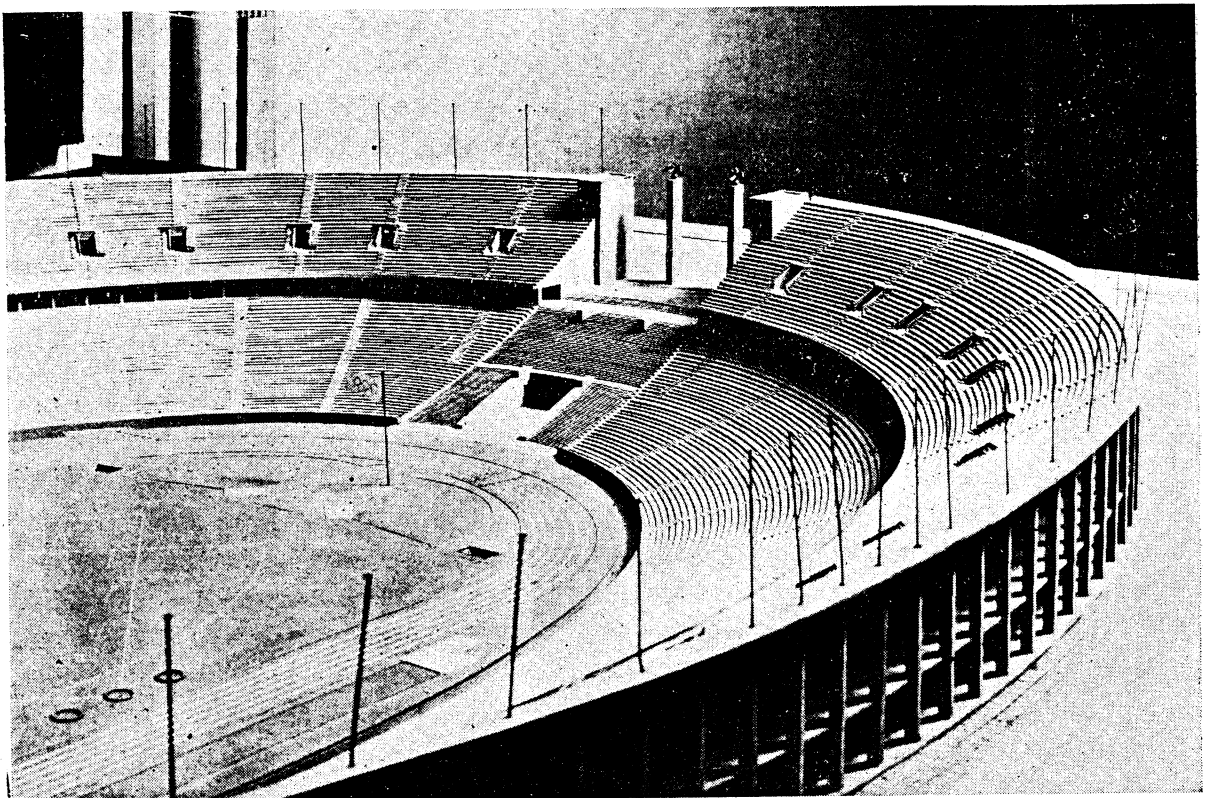
年後羅府に於いて日本が六大優勝國の一に顔を並べやうとは夢想だにしなかつた。1920年アントワープですら17名の代表選手より成る日本チームはまだまた成功には覺束ないものだつた。

やつと日本が注意を惹き始めたのは、それから4年後1924年の巴里であつた。それも岡崎がヌルミ、リトラ等の知名の選手に混つて五千米の最終を走つてゐた事と、織田が三段跳で6位を占め、水上競技が僅に入賞を得た事であつた。

1928年には日本は水上競技に於て第二位國となり、1932年には男子競泳に於て優勝するに至つた。

陸上競技に於ても日本は古參の織田、南部選手の指導の下に著しい進歩を遂げた。

日本の進歩は是でもつて止まりはしない、なぜならばスポーツはまだまだ國民の全部の階級には行渡つてゐないので、莫大の財寶及運動的技能は未發見の儘である。是等を見出し、1936年に準備せしめる爲め、素晴らしい事業計畫が全般に互つて樹てられた。先年の秋(1933)の明治神宮競技は、同年の發展の清算と、伯林への準備の序幕を兼ねたものと見るべきであつて、その時水泳に14歳の學生達が新世界新記録を作り(以下29頁に續く)



• BERIN NEWS NO.2 • THE OLYMPIC STAOIUM'S WEST ENTRANCE



# 濠洲轉戰記

— 記録を主にして —

清川正二

## 一、まへがき

一昨年、濠洲水上聯盟から『宮崎、清川の兩選手を招待したい』との手紙が日本水上聯盟へやつて來た時には兩人とも『學業の都合で行けぬ』と斷つた。所が昨年、再び今度は『今年が丁度濠洲メルボルン市の百周年でその記念水泳大會と全濠選手權大會とを盛大に舉行したいから是非とも日本から、選手を送つて呉れ』と云つて、遊佐、清川の兩選手を指名して來た。遊佐君が都合で行かれないので、水上聯盟から遊佐君の代りに阪上君を推薦して此處に清川阪上の兩人が出掛けて行く事になつた。先方の意向では今一人、牧野君か誰か長距離の選手を招びたかつたらしいが日本側の都合で斷つた。尙、マネージャーも先方から附けてよいと云つて來たのであるが、折悪しく適當な人が居なかつたので、結局選手二人だけで行く事になつた。

所が、七年前、高石、齋藤の兩先輩が招かれて渡濠した時にも矢張り選手二人切りで行き、その時彼地で非常に苦勞されたと云ふ事を聞いて居たので、今度は安部氏に依頼して出發前に濠洲水上聯盟と豫め待遇とか試合の回数とか或は泳ぐ種目とかに就いて可成りの打合せをして貰ひ、一方選手としての私達としても各方面から話を聞いて出来るだけ豫備智識を準備して行く事を努めた。

所が、それでも濠洲へ到着してみると、思ひ掛けない問題が頻出して、二人とも無い智慧を絞り大いに悩まされたものである。兎に角日本選手として最全力を盡して濠洲各地を日に夜を次いで轉戦し二月二十一日に歸朝し無事遠征の任を果たした。

今後、日本の水泳界が愈々發展するにつれてこの様に選手のための遠征と云ふ機会が益々増へるのではあるまいか？

私達は之等の後の人達の爲に、苦い經驗が未だ私達二人の記憶から消へ去らない中に報告の形式にして發表し、後の人をして再び私達の苦しみを味はせまいと此處に本稿を起す次第である。

## 二、往航

聯盟から支度金として金百五十圓也を拜借して、背廣服を作るやら、旅券の下附願やら。今までの日本代表チーム

として遠征する場合と違つて、出發前の繁鎖な準備だけでウンザリする。外務省へ通ひ乍ら『オイ安さん。金だけ貰つて行くのを止さうかい』と云つて笑ひ合つたものである

それも神戸を發つて了へば期らかになつた。先方の希望で十一月十六日、神戸出帆の北野丸にて濠洲に向ふ。船内の生活で最も中心になるのはプールであるが、それは例によつて、甲板上のキャンバス張りのタンク。香港から毎日午前、午後二回の練習をする。練習と云つても、4米と5米程のタンクであるから嫌氣が來て、練習と云ふ程のものは出来ない。いきほひ、運動不足になり勝ちなのを體操やら繩飛び、ランニング、或はデツキゴルフなどで補つて行つた。出發前、重量をコンディションの標準にと注意を受けたが船内の秤が用を爲さないのて目的を達せず。

午睡は努めて採り身體を出来るだけ休ませる様にした。

途中の寄港地では香港で、Y.M.C.A. マニラでは例のオリムピックプールで練習し、ダバオ。メナド。木曜島とプールの無い所は何れも歩き廻つて充分見學した。

尙、同船の外願人とは努めて話をする機会を作り英語會話に慣れるべく努力した。外人達も親切に會話して呉れたし、中にも Mrs & Mr Offieer と云ふ人の好い濠洲人の老夫婦は毎日二人で英語會話の時間を作つて親切に教へて呉れた。

かうして、船中生活の二十七日を愉快に過して船は十二月十一日愈々濠洲大陸の最初の港、ブリスベンに到着した此處で船を捨て、來年一月半ばのメルボンの大會まで濠洲各地を旅行して過さうと云ふのである。

## 三、Queensland 洲の旅

到着と同時に Queensland 洲水泳協會の名譽主事 Goodwin 氏が船まで迎へに來て呉れた。又當地、日本人の親會の代表鈴木氏も來て呉れた。同氏は高石、齋藤兩氏遠征の際も世話せられた人との事、カールトン・ホテルへ落着き、直に日程其他に就き相談する。

先方の出した當洲でのスケジュールをみると、十三日に



北野丸に身を託し神戸港を振出しに南十字星を指しての彌次喜多道中は先づ船中スープの飲み方より始まる



最初の試合があり(十一日に當地へ着いたばかり)引續いて 14, 16, 17, 19, 21, 25, 27, 日と當洲滞在十七日間に、入回もの試合が計畫されており、而もそれが近接地でなく百哩二百哩と離れた田舎を、前夜試合終了後、夜行列車で發つては翌日試合をすと云つた工合になつてゐるので、これでは最初の契約書と約束が違ふからと大いに抗議をするが、先方では『既に前賣切符も賣つてあるし、高い廣告料も使つてあるから』と云つて一向聞き入れ相もない。こちらも此處でこんなに泳がされては前半で疲れて了つて肝心のメルボンの大會に失敗しては不可ない思つて大いに頑張る。結局先方が折れて出て『頼むから俺の顔を立て、泳いで呉れ』と云ふ。頼まれれば日本の男子として嫌と云へないので結局五百哩先の Rochampton 市だけを除く事を條件にして他は全部先方の云ふ通りに決定する。

蓋しこの Rochampton と云ふのはブリスベンから北方五百哩に當る熱帯圏に屬する市であるが、先方のスケージュールをみると十九日の夜此處で試合をして終る後直ちに夜行列車でブリスベンまで歸り、翌廿一日に又大きなハンデキャツプレースをやる事になつてゐるので、こんな事したらそれこそ身體が續かないと思つたからである。

一所が偶々この時ブリスベン水泳協會とロツカムトン水泳協會とが仲違ひしてゐた所だつたのでこの事がそれへ一層油を注ぐ事になつたらしい。翌日の新聞には『日本水泳選手がロツカムトンだけに行く事を拒否した』との大きな見出しで俄然センセーションを起してゐる。而もその理由として高石、齋藤兩氏の例を引いて待遇の改善を要求したと新聞一流の筆法で根も葉もない事を書き上げて居るので斷然 Goodwin 氏を呼ぶでその責をなじると同氏もその非禮を詫びて、早速新聞紙上に聲明書を出して事實を明らかにした。併し納らないのは二人で、今度はこちらから進んでロツカムトンへも行く事にし、二人だけでは問題の起つた時に不便なので鈴木氏を伴ふ事にする。

### 1. 12月13日 Valley Bath (Brisbane)

愈々濠洲最初の試合だ。到着後三日目の事とて調子も何もない。その上、スタートの方法も日本と違つて“Face the water!” “Go!!” の二段モーションで二人とも大いに間違つてゐた。

阪上100米 63.4(一着)。 清川200米 2:39.8(濠洲新記録)。

新記録を作れと云はれ、クロールで順次三人のペースメ

ーカーを付けて泳がされる。前半 1:12.6 で結局濠洲新記録だ。昨年度中の自分のベストタイムより遙かに良いので自分でも驚ろいた程だ。エキシビションとしてスタート、ターン及びダツシュを夫々泳がせられる。

### 2. 12月14日 Sandgate Bath(Brisbane)

阪上、100碼 ハンデイ5秒 一着。55秒。

最初のハンデキャツプレースで、五秒のハンデイだ。五秒遅れて飛び込んだが樂々と勝つ。

清川、150碼、1:42.0(濠洲新記録)

矢張クロールで三人のペースメーカーを付けて泳がされる

### 3. 12月16日 Gympie市。

十五日に汽車でブリスベンから百哩北方の金山へ鈴木氏と Goodwin 氏と四人で来てみて驚ろいた。プールが無くて川の兩岸にボードを打着けてあるだけだ。水が流れてゐるのでコースロープは空中に吊つてある始末だ。水流がある故絶へず川上へ向つて斜に泳がないと他人のコースを侵して了ふ。従つてタイムも何もあつたものではない。見物は兩岸に日向ボツコと云つた形で吞氣にみてゐる。ゲームを終へて夜中の二時に汽車で出發。

### 4. 12月17日 Bondburg市。

百哩北方の當市へ着いたのが朝八時。即日夜八時からゲームだ。

阪上、100碼。ハンデイ 5秒。一着。 54.8

清川、100碼。ハンデイ10秒。一着。 1:03.0(新)

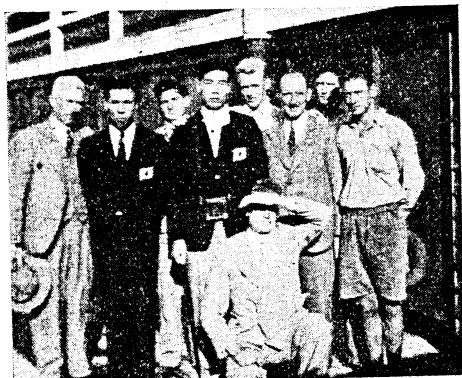
### 5. 12月19日 Rochampton市。

十八日 Bondburgを出發して三百哩北方の先日問題を起した市だ。此處には Tremble と云ふのが居てスタートダツシュが強くてスプリントがあるので當洲で評判選手。これと阪上を競らせたいらしく、種目も先方から八十一碼と二二〇碼を指定して來た。二二〇碼では負けても十八番の八十一碼で勝たうとの魂膽らしい。やつてみたら案外に八十一碼で二碼も離して勝つ。

一着 阪上 41.0。 二着 トレムブル 43.0。

次の二百では無論自信を持つて安心してゐたが、何しろプールの長さが二七碼なんて半端なものだから、阪上見當が着かず最後のスパートを利かす事が出來ず Home pool で慣れてゐるトレムブルにタツチの差で敗れたのは残念だつた。

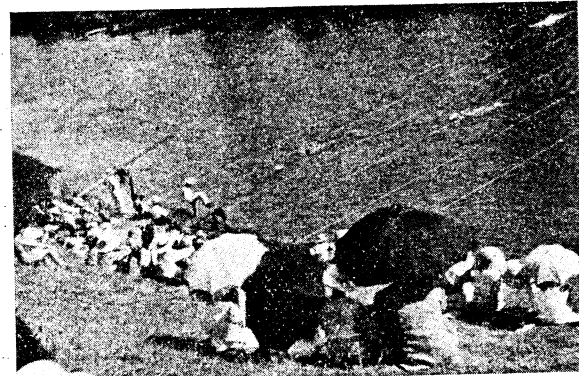
一着。トレムブル。 2:23.0 二着。阪上。 2:23.8



サンドゲート・バスのメンバーと



ロツカムトン宿に舎にて清川、マンゴの樹を背景に



日本などでは一寸見られないギンペイ・バス、河にロープを張つて、流されない様に斜に泳ぎ、兩岸に見物する色とりどりのパラソル。

清川は女流選手に十八秒、他の選手に十五秒のハンデ  
イを與へて百碼を苦戦し、辛ふじて勝つ。記録は

1:02.0 (濠洲新記録)

#### 6. 12月21日。Valley Bath.

ロツカムトン朝六時に飛行機で出發。十一時にブリス  
ベンに着いて即夜試合。

阪上。100米 ハンデイ 5秒 一着 62.0。50米 獨泳 27.4

清川。100米 ハンデイ 10秒 1:11.8(新)

七年前、日本へ來朝したトムホースト及びブレッズの兩選  
手に會つた。未だ泳いでゐる。日本遠征記念のアルバムを  
持つて來て見せて呉れた。又昨年來朝した濠洲ラグビーチ  
ームの一員ヴァインセントが夏季は有名なスプリンターとし  
て活躍してゐるのを見た。

#### 7. 12月25日。Toowoomba市。

午前五時汽車で百哩南方へ。正午到着して即夜レース。  
生憎と雨が降つて來て気温が下る。兩人とも少しく風邪氣  
だ。おまけに連日のレースで疲労が積つて居るので記録も  
段々と下がつて來る。

阪上。320碼 ハンデイ10秒 一着 2:29.4。66碼獨泳 34.8

清川。100碼 ハンデイ 7秒 1:05.0(新)

#### 8. 12月27日 Warick市。

更に汽車にて五十哩南下す。

阪上 200碼 ハンデイ10秒 2:11.0。 66碼 獨泳 35.0

此處では七年前の高石氏の三四秒が未だ破られずに残つ  
てゐたのでそれを破らふと試みたが渡れゐて成らず。

清川 66碼 42.4(新)

兩人共風邪氣味で殊に阪上は熱があり醫者を呼べど責任  
を回避して確たる診断を下さず、田舎の醫者で頼りないので  
豫定を一日早めて在留同胞の多いシドニーへ向ふ。

### 四、New South Wales 洲の旅

十二月二十九日正午多勢の在留同胞に迎へられてシドニ  
ー一着。之より先 Queensland洲での酷使にこりて Brisbane  
滞在中に、New South Wales 水泳協會から同洲滞在中の  
豫定表を送つて貰つて打合せをし、尙一切の打合せを領事  
館及び日本人會の方々にお願ひしておいたので此處では非  
常に呑氣な気分になれた。おまけにシドニー新人會として日  
本人會中の若い人達はよく二人の氣持を察して行き届いた



シドニー風光。此處でやつと落付いて、入江を圍んで  
美しい國際都市シドニーの風光を眺める事が出來た。

御世話をして下さるし、食事は毎日奥さん方が腕によりを  
かけての日本料理の御馳走なので、兩人スツカリ氣を落着  
けた。

但し身體の方は醫師に診て貰つた所が風邪だからとて二  
人とも當分練習を禁ぜられた。けれども一週間後にレース  
を控へてゐるので翌日から直に練習を行ふ。

#### 1. 1月1日。

午前中領事館の新年の拜賀式に出席して故國を遙拜す。  
八十度の夏の太陽の下で『お目出度う』を言ひ交すお正月  
は初めての経験だ、お正月は矢張り雪景色でコタツの中  
の方が氣分が出るナと思つた。午後から自動車で八十哩郊外  
の Mittagong へ連れて行かれエキジビションを行ふ。

#### 2. 1月3日。New Castle 選手權大會。

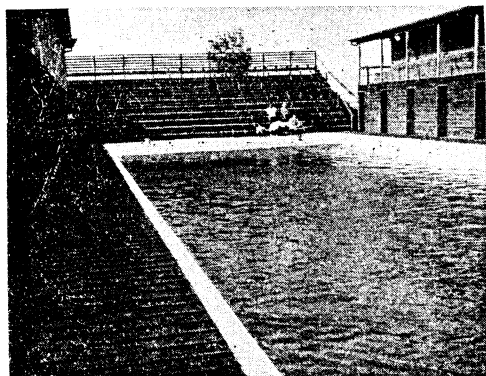
午後四時の汽車で百哩北方へ。七時着八時からレース。  
清川 100碼 1:03.2(新記録) 阪上 100碼 55.4(新記録)  
阪上の記録は當地で七年間破られなかつたものを破つた  
のである。二人とも選手權を獲得して同夜半一時汽船にて  
出發して朝早くシドニーに歸る。

#### 3. 1月5日 Domain Bath New South Wales 洲選手權 大會第一日。

清川 110碼 一着 1:11.6(新)

阪上。220碼レースでロスアンゼルスで活躍した Noel  
Ryan と非常な期待を受けて競つたが調子悪く前半六十三  
秒にてリードせし後半續かず遂に三等に墜つ。

一着 Noel Ryan 2:20.0 二着 Blues Hodgson 2:26.0  
三着 阪上安太郎 2:26.8



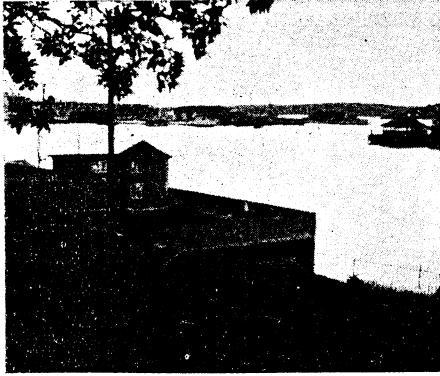
ボンデバーグ・バス長33碼 3分1幅12碼



ワリキにて歓迎の爲日章旗を自動車に



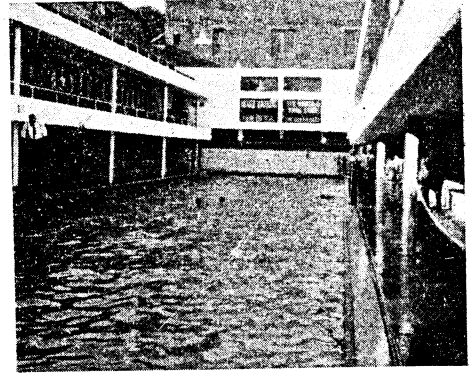
ミッタゴング・バス 長50米 幅40米 幅分  
で赤い河の流れに作つたもの



ドメインバス外観、長10碼 幅50碼  
海中にじつちへ、クラグ湖山



エンフィールドプール 5'米 10'米 工費15萬  
圓全部色タイル



クワイバース15碼 12碼 海水

試合終了後醫師にインフルエンザと診られ練習を絶対禁止さる。

#### 4. 1月7日 Enfield Bath

約二十哩郊外に新しく作られた總タイル張りのプールに清川一人にてエキジビションを行ふ。

#### 5. 1月8日 Menly Bath

New South Wales 洲 選手権第二日。

清川 110碼 ハンデイ10秒 1:10.0(新)

#### 6. 1月10日 Coogee Bath 第三日目。

清川 200碼 ハンデイ16秒 2:24.2(新)

#### 7. 1月12日 Domain Bath 第四日目。

かくて N.S.W. の選手権を總べて獲得して十三日在留同胞の盛大な御見送りを受けてその御親切を謝しつつ最後の目的地メルボルン市へ汽車にて向ふ。

### 五、Victoria 洲の旅

十四日、午後同胞の盛大な歓迎を受けてメルボルン着。尙當地には既に同じく招聘を受けて來朝した佛のジャン、タリス、飛込のエミール、ブザーの兩選手及び支那の平泳選手、郭振恒が居た。

當地は氣候の變化激しく、一日に四季を有すとさへ云はれる程で、一日の最高温度百四、五度に達するかと思へば一度風向が變れば直に七十五度程に低下する様な状態で市民は夏季でも外出の時は冬のオーバを持參する程である。阪上もスツカリ元氣を取戻してゐる。

#### 1. 1月16日

今度の百年祭記念水泳大會及び全濠選手権大會の爲に特に新しく作られた "New Olympic Pool" のプール開きにタリス、ブザー、郭と五人で夫々エキジビションを行ふ。總タイル張りで水中照明式で水も温める装置がしてある。五十米に十八米でスタンドも四千人程收容出来るし、濠洲としては可成り良いプールだ。

#### 2. 1月19日 全濠選手権第一日。

清川 エキジビションゲーム

阪上 百碼選手権獲得 55.6

N.S.W. の新進 Kendal との勝負が噂されてゐたが、阪上アツサリと勝つ。

#### 3. 1月22日 第二日。

阪上 エキジビション。清川 100碼選手権獲得1:05.0(新)

數日來當地新聞紙上に『最近開催される濠洲水泳聯盟總會に於て Queensland 洲代表は日本水泳選手のアマチュア資格調査方をその議題に載せん事を提案するだらふ』との記事が出て大いにセンセーションを起した。この藪から棒の記事を読んで我々は最初の程はその意味を了解するに苦しんだものである。何處からこんな問題が起つて來たのであらふ。苟も自分達の方から招待して出發前契約書まで取交しておき乍ら而もその選手のアマチュア資格に對して云々するなぞ非禮にも程があると日本人會の人達に相談し日本人會長を通じて水泳聯盟名譽主事 Fawcett 氏にその非を質す。濠洲水泳選手の中にも先に友達になつた N.S.W. の連中は私達に同情して『こんな聯盟は頼りにならないから來年のベルリン大會にはカナダの國籍として出場し濠洲の爲に泳いでやらないゾ』とまで極言する選手さへも出て來た。間もなく Fawcett 氏より『右の記事は全然ジャーナリストの策動であつて、總べては誤解から生じたものであるから』とその非禮を詫びて來て日本水上競技聯盟に對して詫状を呈出し、尙プールで公衆に對して右の事實を釋明する事になつたので此處に落着をみた。

#### 4. 1月24日 メルボン市百周年記念選手権大會。

阪上55碼選手権獲得26.8 清川100碼選手権獲得1:11.2(新)

#### 5. 1月24日 Last Carnival.

Invitation Handicap Race とて百米を清川、阪上共に濠洲選手に交つて泳ぐ。清川背泳にて七秒のハンデイにて先發、結局ハンデイ二秒のフレミング(Q)選手がタツチの差で阪上を破つて優勝す。清川五着。阪上のタイム六一秒四試合終了後直に多數同胞に送られて『シドニー、エクスプレス』にてシドニーに向ふ。

#### 6. 1月27日

シドニー Coogee Bath にて濠洲 NO.1 水球チームと阪上、清川を加へた混成チームとの水球試合を舉行。八對八にて引分け。翌二十八日午前八時飛行機にてシドニーよりブリスベンに飛び午後二時熱田丸に乗込み日本に向け出帆歸國の途に着く。

かくて滞濠五十日全行程二千哩の慌たどしく忙しかつた旅行を終り復航は呑氣な氣持で毎日寝て歸る。日本へ着いたら學年試験が待つてゐてトタンに又忙しくなつた。(續く)



メナド風物



マンリーの Harbor Beach 夜景



メナド風景

## 南十字の島へ 旅は續く

— 隨所・隨感 —

坂上安太郎

濠洲への旅は忙しいの一語が充分其の内容を物語つて呉れる。

忙しいので無理が出来て来る。無理だから止めればよいが止められないのが日本人で、無理を無理して意地張りになる。言葉の不利から来る無理と日本人だと云ふ意識から来る無理とがそれである。

此の様な場合つくづくマネジャーを兼ねた監督を欲しいと思つた。監督は選手ぢやない、だから自由に對應出来る氣易さがある、又所有責任も負つてくれる。

無理せずに行つて来いよ、と云ふのが餞別の言葉だつたが今しみじみ味つて居る。無理するなと云ふのは遊べと云ふ意味では毛頭ない。

それだけに此の言葉は意地張りの日本人には餘計に有難いと思つて居る。

此の旅に於いてマネジャーなり、監督なりの位置を遂行して行く人達の多忙なる立場と責任とを充分に諒解した積りだ、選手は監督に對して或る意味で多少我儘であり得るし又有り度いと思ふが選手だけの旅には此の我儘は通り得べくも無く、よし通つたにせよ所有責任は自分達に歸するのである、それだけに今度は無理もした。

旅券下附と云つたそれ程の事にでも、自分でやつて見ると随分倦き倦きする事が多い。苦もなく行けた羅府や馬尼刺の兩大會が有難い。

種々やる事が有るものだと其の節其の衝に當つた人々に感謝したものだつた。して見ればもう出發の時から監督の必要を感じて居たのだ。

此の事よりして今度の遠征の様な場合にも、監督を附するか其の事が不可能ならば行く先の領事館とても聯絡を取つてそれと同等の権限を在外日本人の適當なる人に公式の名で與へて選手のマネジャーを委任するのが必要なる方法だと考へて居る。此の事だけでも選手は樂な氣持ちで選手だけの分を爲し得るのである。

濠洲の事情については餘り豫備知識を持たない様に出發の時から心がけて居た。大した理由でもないが、初印象を自分で作りたかつたからである。人の豫備知識を持つて行くと、往々異つた風に實際を見勝ちだし、旅行は實に此の初印象が全てであるし、折角旅をするのだからと云ふ氣持からと、それに面倒臭さも伴つて、併し此の事は或る點では確に失敗だつた。即ちより良く既に渡濠した二先輩の競技の話を書くべきであつた。

競技に對しては日本人が持つ眞實さと可成りかけ離れた氣持であつたと云つても決して誇張ではなかつた、勿論水上競技以外は知らないのであるが。

鹽水と淡水、靜水と動水、こんな事に神経を極度に使ふには餘りに大陸的である。だからプールの或るものは出發臺が一尺も前後に移動し背泳ぎの出發、平泳ぎの形等も先づどうでもよいと云つた風であつた、而かも此の様な状態の下に於いて作られたる記録は正式に公認される事になつて居るのである。又ハンデキャツプ試合をイヤと云ふ程行はさせられた。

觀客の態度、これも日本程眞摯な事は望めないにしても、もう少し好奇心から離れた眞實さが欲しかつた、假令社會狀勢の異なる事よりして一概には云ひ得ないにしても。

聯盟の組織、これについては頭初から日本のその如きものは考へて居なかつたから大して驚きもしなかつたが濠洲は洲が異ると事情もすつかり異なるのであつてシドニーとメルボンは常に首府の所在について争ひを續け、仕方なくキャンベラと云ふ何れへ付かずの首府を設立しなければならぬ愚を敢へてして



居る程である。又其の歴史的発展過程による必然性よりして鐵道を例に取るのは拙劣かも知れないが、各洲ゲージを異にして居るのもよい例だ、これ等の各洲にそれぞれの水上聯盟があり、これ等の各々を統括して居るのが勿論全濠水上競技聯盟であるから其の結束統一の不完全さは概略知り得る譯だ、これで不便がなければよいがこんな譯だから各洲とも選手権種目を異にして居る、此所にも保守的な英人の特徴が影響して各洲で独自のシステムを固持して居る譯だ。

大きく全濠水上競技聯盟を見てもヤード制を主として居る、一例が百十ヤード等は大きな問題ではなくして百ヤードが問題となると云つた風だ、チャールトン、デニスの様な世界選手を送り出しておき乍ら尙且此の状態である。水球は盛んだが競技其のものは徒らに歴史古くして進まず、唯競泳と別個の協會を有して居るのが進歩と云へ様か。飛込みは日本に比しても確に幼稚なものだと素人目にも解つた。

尙遺憾と思ふ事柄としてアマチュアステイタスの問題とロッキヤムトンの問題がある。これ等は日本選手に対する不認識と彼等協會の不統一より牽き起したもので、自分達の負ふ責任では少しもないが報告の責任上試合の概略と一所に後に詳しく書き度いと思ふ。又外來選手高石、齋藤、アルネボルグ、カリリ、タリス、自分達に付いて飲酒と喫煙の點で彼等は可成り注意して居た様であつた、此の事も普通の事だが面白く耳の底に残つて居る。

人命救助協會が水上の何よりも盛大で且つ權威を有して居る事は同じ水上の事では有るからこれも付け加へて書いて見たいと思ふ。

何を見、何を聞くにしても僅六百萬の人口の國、數に於いて東京と大差なく、東京でも一ヶ月も居れば大體どんなものか見當が付く。

日本が羅府で示した水上日本の威力は想像以上に大きい日本でも可成り其の氣味はあるがもう次の大會が來年に迫つて居るのに赤の他人の彼等がまだ日本の勝利に酔つて居る、水上日本は世界の希望だ。彼等は次會の日本の優勝を既定の事と考へて居る。そして素晴らしい記録と勝利を日本水上に望んで居る、彼等自らは夫を成さうとは考へないで。

濠洲に着けば試合が待つて居た、日本に着けば試験が待

つて居た、して見れば船中のみが安息所だ、船の旅と濠洲の旅を書き綴るのも心安らかさを加へた思ひ出かも知れぬ。試合の經驗は直接體に受けたものだ、忘れ様としても忘れられないがともすれば忘れ勝ちになるのは隨所に於ける隨感である、試合と此の隨感を引き離して書くのも一案だが一樣におしなべて書くのも面白く、統一無き頭の持主たる自分には返つて易々たる感がする。

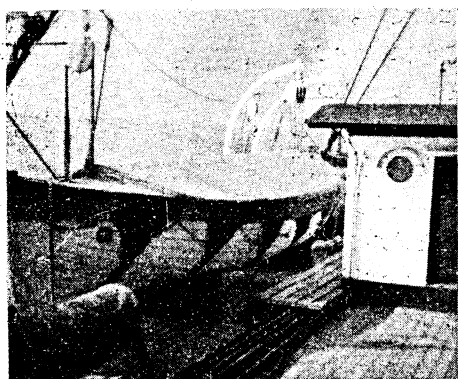
秋深まり行く時に神戸を出てより、雪の六甲を眺め得る迄の事を書いて報告とし度い。試合の細事記録に就いては清川君の正確さを煩はす事に約せり、尙東京出發の際、送別會に、驛頭に、多數見送りの光榮を得、特に松澤一鶴氏の巨大なる姿が最後まで見られたのだつた。此の皆様への感謝の氣持は今でも新であるにかゝらず葉書すら出さぬ失禮を筆不精の罪にするのも潔よしとせず、此の報告書を通じ衷心より詫びる次第です。

出發 神戸港を振り出しに瀾次喜多道中の道につく。外國への旅は先づ船中スーブの飲み方より始まる、此の春の初め同じ港より極東大會に種々な景品付きで乗り込んだものだつたが、流石に一寸感慨深いものがあつた。

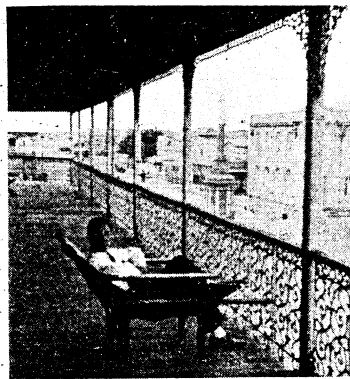
瀬戸の漁村の秋深き夜と、多少淋しさに似た心持は其のまま、長崎の雨にぬれた夜景を一入懐しく、支海の波音を聞く頃から流石に旅立つ者の淋しさをしみじみ味つた。例の如く最初は船のきしみにも夢結ばれず電燈の笠に蠅がとまつて動かないのも氣になる様な人並の船旅の氣分に數日は過ぎた、着く先は遠く來し方は近い。それで自然と先を考へないで日本を考へる事が多い此の頃だ。船中稍々賑ひを呈し此の頃より人々と談笑する夜が續く、ダバオのワニ狩の話や又はインカ帝國の古めかしい話等自然夜は更け勝ちだ。

十一月二十二日初めてタンクに飛び込む、自分は日本を出る時に同じ濠洲に行くなら變り易い、自分のホームをこの機會に固め様と思つた、そしてこれが唯一の希望だつた。

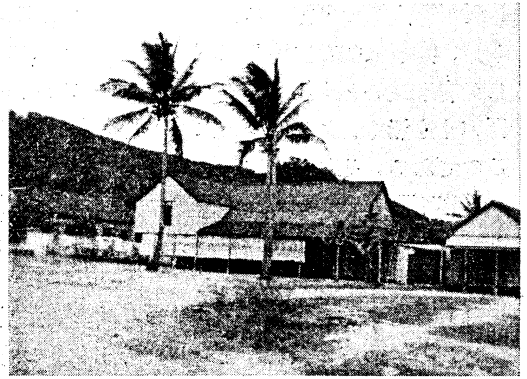
長崎を出て二日水蒸氣が段々多くなつて香港に着いた頃には春になつて居た、極東大會でおなじみの Y.M.C.A.を鶴岡氏の後を追つて尋ねて見る。翌朝は香港島の例の鹽水のタンクに行く此處の夜景は相變らず美しいもの一つだ。



旅情をゆきまづつて、南へ南へと走る北野丸



ツーンパ、宿屋のペランダにて清川



木曜島風景

南十字星への旅は尙續く、香港を出るとすぐ夏だ、晝寢が唯一の楽しみとなる、正に六月の秋だ。

南海の波は油の如く、海行く者に神秘さより来る恐怖さへも與へるのだ。

赤兒の無邪氣な微笑の如く紅い日の出の美しさに、船尾を追つて来る月光の爽さに、白き波頭の部分に輝く夜光虫に、そして數多くしかも幾つとなく降る星の面白さに、旅情なくさめらるるもの多し。

あの白い岩壁を右に見てマンゴーのマニラに着いたのは十一月二十六日。

マニラ マニラはさすがに夜の國だ。ココ椰子の海岸通りにしばらく此の春の大會の當時を追憶したものだつた。

プールに燈の入る頃にリノーザール記念苑で練習した。なじみの某の世話で試合中だつたが便宜を計つていたといて有難く思つた。最夜中に出港した、一しきりざわめきもすぐ静けさに戻る、後はエンジンの響きのみ夢に入つて来る。

同じ浪を見てゐても、其の地域の特異性はすぐ感受出来るものだ。

船上の生活 自分は是にはエンチヨイ出来ると思はなければ決して無理には其の仲間に入らぬ様に努めた。

ザンブンガ 漁村によく見られる棧橋があつて、獨木舟が浪の間に間に何れへか向つて進んで居る。

目も覺める様な明い緑が日本の五月の様に輝いて、それ等の樹々は海中に繁茂して小島を作つて居る、其の間に土人の家がヤグラの様に木を組んで水中に立込んで居る。船の横を時々椰子の實が流れて行く、奥の山山はスコールにぬれて霧の中に處々緑を表はし、墨繪の様にぼんやり光る、そは降る雨の海面に、黒い魚が跳る、たくましい鮫の尾鰭が出没する、進む船の作つて行く白浪の中から羽根を油の様に輝かして飛魚が幾つとなく彼方の浪に消える。

海岸一面に繁つた椰子、その樺色の幹が隙間なく林立して其の上部に一樣に滴る緑の森を作つて居る。赤いスレートの屋根は白人の家らしい、以上が船から見たザンブンガの眺めだ。

ダバオ ダバオに着いたのは全くの夜だつた。ランチは大ゆれにゆれて未知の棧橋に着いた、ランチの小さな然かも唯一の油燈の淡い光をたよりに棧橋に這ひ上つた。



ツーンバのBotanical Garden

先ず南洋独自の強烈な花や木の石鹸の様な香が鼻をつく。街まで數十町、一本道は見上げる程の椰子の木や、赤黒い花や、アカンヤの大木が、ヘツドライトに怪しく明滅する螢が飛び交つて居る、此處でこれを見様とは夢にも思はなかつた、皆懐しさうに暗の中を注視した。

『今晚は』と云つた七ツ許りの女の子も居た、此の聲を聞いた日本人にはこんな懐しい喜しい事はないと思つた。

此處の印象は随分深い、書く事は色々あるが餘り長くなるので止める、唯此の附近の森林は三層林と云ふ特種のものだとの事だつた。最近では日本人の子供が月に七十人づつは出産するとの事、邦人の麻の栽培で有名な處、二十五尺餘の蛇が居るとの事だつた。

ランチは再び極端に揺れて母船に着く。

十二月一日 蘭領メナド着。

メナドは水戸のなまりだとは在留邦人の言だつた。

島巡りは自動車で、

吾々は先づ天空に延びるだけ延びた椰子の並木の中に六〇哩のスピードで突入する、全山すべて椰子の大木を以つて覆はれ七十哩の全旅程、全てこの目も覺める様な緑の林であつた、是等は赤道直下の光線に白く光つて浪の如く眺めらる。

赤紫の朝顔の如き花は最も高い香を放つて居る、コスモス、ダリヤ、アカンヤ、ジンジャ、枯薄 龍膽、それに邦人が南洋櫻と呼んで居る眞紅な花樹 赤黄青の濃き配合がもたらす南國の色彩を充分味ひ得た。

バナナの花は蓮の花にも似て一尺五六寸の大きさなり、青き總の尖端に付いて居る、實は淡紫を帯びて香氣高し、パパイヤは赤、パウパウとも云ふ オーストラリヤでは後者の方を取つて居る、マングステンは椰子に似てやや細き幹を有し葉は入ツ手の如し、此の實は果實の女王と呼ばれて居る、染料として尊重され印度更紗の如きものを作るとの船中の話だつた。

墓地は裸體の人形を彫り付けた原始的なものだつた。

海岸には木に昇る魚が住んで居るとの事だつた、其の他松の如く太く、一本の根より二十本位密生して居る竹の木も面白かつた。こんな話は幾らでも有つて盡きないから止め様、もう附近はボルネオの末だ。十二月二日赤道祭。

——清川坂上君の濠洲遠征報告は次號に續く——



濠洲特産ネイチブ・ペーヤ



清川、坂上兩君の濠洲行には相當珍無類の赤毛套もあつたらしいが、兩君仲々口を緘してよう言はぬ。やつと、聞き得た失策談のかげらと覺ぼしきもの一つ二つ。

清川君が濠洲で柔道を、而も金髪婦人から挑戦された話。

多分歓迎會の席上ででもあらう、あちらの一婦人から「あなたは柔道ないますか？」と聞かれて「ええ」と答へたのが百年目、此の婦人、日本のツウツを修めたと言ふ腕自慢、では早速歓迎の意味で試合をしたいと申込まれた。清川君今更ら引きもならず、それに田舎の中學時代選手だつた自信も半分手傳つて應戦する事になつた。

扱く、試合の経過は先づ清川君が足拂で倒して「業あり」續いておさへ込みとなり、相手は婦人だし大いした事はあるまいと高をくゝつて軽くおさへ込んで「一本」にする豫定だつた。所が金髪嬢の足が見る見る上つて清川君の首を確り挟んだと見るや、清川君の體は勝算と共に轉覆して見事下敷になつて了つたとの事。その時のいかにも迷惑さうな同君の顔が目に見える様な氣がする。

歓迎攻めに遇つた東邦の珍客清川、坂上の兩君、娘子軍の歓迎に遇つて、始めは少々テレ臭さうにしてゐたが、乞はるゝ儘に坂上君は「おけさ」を教へ、

清川君は日本で四五年前に流行つた「酒のめよ」、と言ふ歌を教へた、所が娘子軍に「おけさ」の溢さが解り様なく、清川君の教へた「酒呑めよ」が無闇に氣に入つて了つて、覺束かない日本語で、「酒のめよ、酒呑めよ、酒呑みはこら怠けもの、養老の瀧がのーみたい、酒のめ、酒のめよー」とコーラスが始まつて了つた。それが坂上君の耳にはどうしても「坂上は酒呑みよ、坂上こら怠け者、養老の瀧がのーみ度い、坂上酒呑みよー」と聞へて仕様がな。はじめは坂上君不平さうに苦笑してゐたが、遂いにたまり兼ねて『止せ、そんな歌、止せつたら止せ！』と怒鳴り出して了つた。娘子軍が目をパチクリして吃驚したのも無理はないが、人一倍下戸の坂上君が怒鳴るのも無理はない。

帝大水球の藤原豊君、試験が終つて能々した顔をして、久し振りで聯盟へやつて來た「試験勉強で大變だつたでせう？」と言へば「ええ、どうもネ、不斷あんまり遣り付けない事は勝手に違つてネ」と、仲々即意妙答春季水球リーグ戦を目指して遣り付けた事を又ホツホツ始めやうとの事。

是は、漫録ではありません。眞面目なお目出度い話。春陽四月のそよ風に乗つて結婚挨拶の便りが二つあつた。水球委員の廣瀬秀俊君（慶大出）が同じく

水球の阪倉君の令妹と目出度く華燭の典を擧げられ新居を淀橋區柏一の一四二に構へられた。

今、一つは飛込の生江哲太郎君が此の程、明大を卒業と同時に山本公子さんと華燭の典を擧られ、更に三省堂出版部に勤務されたと言ふ、誠に消息子さへ間誤つく程の急テンポで、「螢の光」から「高砂や」「右社員に採用す」と三段跳の御目出度振り。

舊臘、大阪に歸郷された高石勝男氏は住居を兵庫縣大庄村に定められた事は前號にてお報せしたが空巢規ひに見舞はれ被害甚大を罹つたので早速再轉居されて、大阪市西嶋町九八の父君のお宅に住居れる事になつた。

聯盟から歸りがけ、丸ビル、エレベーターの中で拾つた話。

「八階の水上演習ありや、何の會社かれ？」「泳ぎに定つてゐるじやないか」相手は首をかき上げて「そうかなあ、だつて泳ぎなら水中ぢやないか、それに水上警察だつて水泳の警察ぢやあないし、きつと水上生活者の…」トタンにエレベーターは一階まで來て了つたのでその話のあとには聞く由もない、従つて本號の漫録欄もこれで終りと言ふ譯。

明治神宮外苑水泳場指定席發賣

2箇年・20圓（昭和十・十一年）

明治神宮外苑水泳場にて行はるゝ日本水上競技聯盟及全國學生水上競技聯盟公認の水上競技會に通用

取扱所 丸ビル805本聯盟事務所



# 日本競泳發達史

## 13

市村魁山

### 第二章 競泳躍進時代

大正12年度—大正15年度

#### 第二 競泳躍進期

##### 2 布哇遠征の壯舉 (大正15年度)

世界的レベルに向上せんとしてつゝある、わが水泳界は劈頭、高石勝男、齋藤巍洋、新井信男、野田一雄、木村象雷の五選手に宮畑虎彦が監督として布哇に遠征し、多年世界に雄飛した布軍を一蹴してわが新興日本の威力を示し、更らに秋には布哇軍の捲土重來を多摩川に迎へ搏つて之れを破り、國內競技界には幾多の新記録を生み、空前の躍進を遂げたのである。短距離に於ける高石選手の神技は愈々冴えて、200米2:16.8、400米5:03.4、800米10:48.0の世界的記録を出し、佐田徳平は益々實力を發揮して高石に次ぐ有望を思はしめ、長距離では新井信男に次いで竹林隆二が新たに擡頭して斯界に認められ、背泳では木村象雷の全盛に伍して若冠入江総夫が期待された。特筆すべきは平泳に於ける鶴田義行の彗星的出現である、200米に3分を切るは不可能なりと嘆ぜしめた斯界に、一撃3:02.0、3:00.2、更らに、2:57.2分秒といふ待望の2分臺突破の驚異的偉業を遂げ、好漢自愛せよの聲が全國に擧がつた。布哇に於ける800米繼泳9:44.0の世界記録及び秋の多摩川に於ける同9:38.2の世界新記録は我が中堅選手の躍進を裏書するものであつて、

斯く内外多事、水泳界空前の盛況を呈したのである。

日布水泳大會(6.18-19ハワイ)

**日布競泳の計畫** 太平洋の一孤島布哇は、常夏の水泳王國として、カワナモク兄弟、ケヤロハ等の諸豪を中心に、國際オリムピック大會には花々しい戦績を残し、米本土・濠洲・瑞典に譲らず、錚々の名聲世界に高かつたのである。爾來太平の夢まどらかに過去の花々しい功績を謳歌しつゝある際に、二三拾年立ちおくれと稱された極東の日本が次第に彼に迫りつゝあつたのである。布哇アマチュア運動聯盟役員にして且つアウトリガー倶楽部の幹部たる、ダットセンターは深く之れを憂慮し、布哇水泳界の警鐘たらしむべく日本選手數名を招待する計畫を立てたのである。之れもとよりわが年來の希望であつたから喜んで参加に決し茲に太平洋の海波に結ばれた兩國が固い握手の下に技を練磨する好機に恵まれたのである。

**我代表選手の渡布** 宮畑虎彦監督の下に高石、齋藤、野田、新井、木村の精銳が郵船太平洋丸に乘じ横濱を出發して此の壯途に就いた。六月三日以來船上のタンクで練習しつゝ十一日午前目的地ホノルルに上陸第一歩を印し、爾來十六日まで毎日午後二時と八時の二回に猛練習を續け、開戦の日おそしと待ち構へた。日軍勝つか、布軍勝つか、俄かに豫斷を許さぬところ、併し自由型百米二百米四百米に於けるわが高石のタイムは彼に勝り、また八百リレーに至つてはわがメンバー彼に勝る、背泳に至つては世界の怪雄ケヤロハに譲るべく、先づ不出來としても五分五分の戦績は



あげ得べしとの見込であつた。但しプールはプナボウの戦捷記念タンク25碼であるのに我れは之れに不慣れ故、彼我タイムの比較のみを以て斷ずるのは早計なりと云ふものあり、また布軍のスランプに乗じて案外の大勝を博し得んと樂觀する者もあり、愈々開戦までは在住邦人の焦慮は涙ぐましいものがあつた。六月十七日午後七時から、四競技の布哇豫選とウォーターポロが行はれた。此夜木村は背泳、其他は自由型を以て高石、野田、齋藤、新井の五選手が100碼のエキシビジョンを見せた。スタートラインに並列するや、アナウンサーは我が選手を一々紹介する中にも高石をWeissmuller of Japan と云つた時は満場急霰の如き拍手が起つた。

### 競泳第一日(6.18)

競技は午後七時半開始の豫定なるに、早や六時頃からプナボウにつめかけた観衆は立錐の餘地もなく二千六百餘と註せられた、折しも朝來の暗雲名残りなく晴れて半弦の月中空に懸り満々と湛へられたタンクの清水は、煌々たる電燈の下に瑠璃色なしてゐる。

**100米自由形** 大會劈頭ウツド、齋藤、カワナモク、高石の順でスタートする、最後のターンの直前ウツドが腹壁痙攣をおこして沈みかけた、此の時ケヤロハが高石の後方を救助に飛び込むや、間もなく最終のラツプを告げるピストルが發射された。之れを故障に因る中止の合圖と思ひ込んだ高石が、一時中止する際に乗じて、抜かれてゐたカワナモクが先進してゴールに飛び込んだ、タイム 1:00.6。

審判の判決は高石とカワナモクとが第四ラツプの際に互ひにからみ合つたのを理由としてノウレイスを宣し明夜更らに新規やり直しといふ事になつた。併しカワナモクは翌晩遂に出場を肯んぜず、反之ウツドは堂々の泳陣を張り賞讃を博したのである。

**200米背泳** ルーニン、ハリス、ケヤロハ、木村の順で泳ぐ、最初の100米では木村力泳してケヤロハと大差なく或ひは之れを抜くかと思はれた位に水際立つてゐたが、最後に約六米の差で第二着となる、併し第三着のハリス、第四着のルーニンを後方に残し去つたのは鮮かであつた。

第一着2:42.4 Wケヤロハ、 第二着2:47.6木村



●ホノル、埠頭日布兩選手●

**400米自由形** 當夜100米に次ぐ呼物のレースである、殊に100米が遣直しの宣告となつたので、同胞の期待は此の競技に集中された觀があつた。新井、B.ウツド、高石の順で泳ぐ、90米から200米までは新井先頭を切つて進んだが、高石遂に之れを抜き、遂に一着、B.ウツドは新井に迫り兩者大接戦の末、新井は遂に一米を離されて敗れたのは惜しかつた。

第一着5:12.8 高石、第二着 B.ウツド、第三着5:25.0新井

### 競泳第二日(6.19)

**100米自由形** J.ウツド、高石、齋藤の順でスタートする、ウツドと高石の白熱戦は最高潮に達し、齋藤も之れに肉迫す、高石遂に一米を離して勝つ、兩者共に布哇新記録である第一着59.4高石勝男 第二着59.6 J.ウツド 第三着齋藤巍洋

**100米背泳** ハリス、W.ケヤロハ、ルーニン、齋藤、木村の五選手で覇を争つたが、ケヤロハは依然強く、ルーニンとハリス之れに續き木村、齋藤の力泳も空しく布軍の全勝に歸したのである。

第一着W.ケヤロハ 1:11.0 第二着ルーニン 第三着ハリス

**200米自由形** 高石、野田、ハリス、B.ウツドの順である、高石最初からリードし野田之れに次ぎ、遂に敵の乗ずる隙を與へなかつた。二着野田のタイム實に 2:23.0。一着高石は人氣の中心となる。

第一着2:19.0高石勝男 第二着2:23.0野田一雄 第三着ハリス

**800米リレー** 野田トツプとなる、スタートするや調子極めてよく見る見る10米をぬいて二番齋藤に渡す。齋藤力泳したが、敵もさるもの五米餘につめらる。三番新井奮闘したが矢張り同様の差で高石に繼ぐ。高石飛沫を上げて渦巻く水のうちに突進し、約19米の差を以てゴールに入る、タイム 9:44.0なり。シカゴのアスレチック倶楽部の世界記録 9:53.0 をぬく事まさに8秒、やがて一段高く之をアナウンスするや萬歳を叫ぶ聲、雷の如き拍手と相和して靜寂なるプナボウの空をゆるがし、タンクの水も湧き立つかと疑はれた。

第一着9:44.0日本チーム(世界新記録) 第二着 差19米 布哇チーム

**日布大會戰蹟** 1924年巴里のオリムピック大會に於て100米自由形に二着三着を占めたのはカワナモク兄弟であつた、更に100米背泳に連年第一着を得たのはW.ケヤロハ其の人であつた。かく咲き誇つたる布哇の水泳界も、新興日本の爲めに完膚なきまでに粉碎せられ長夜の惰眠を醒まされたのである。

100米自由形 59.4 高石勝男、J.ウツド、齋藤巍洋  
200米自由形 2:19.0 高石勝男、野田一雄、ハリス  
400米自由形 5:12.8 高石勝男、B.ウツド、新井信男  
100米背泳 1:11.0 W.ケヤロハ、ルーニン、ハリス  
200米背泳 2:42.4 W.ケヤロハ、木村象雷、ハリス  
800米リレー 9:44.0 日本(野田、齋藤、新井、高石)

得點 日本 28 布哇 25



●第一回布哇遠征チーム● 左より 齋藤巖洋 野田一雄 木村象雷 高石勝男 (J.ウツド) 宮畑虎彦 新井信男

## 第二回全國高等專門學校大會 (7.25 京大)

早高は此の回に初めて高石、奥野、森及び木村等の精鋭を送り、同志社は入谷、小杉、關西學院は石田恒信、杉原茂、村上弘等を以て之れを迎撃したが、昇天の意氣を有する早高が壓倒的大捷を博した。■は短水路日本新記録

- 50米自由形  
29.3 奥野良(早) 杉原茂(關學) 村上弘(關學)
- 100米自由形  
1:06.7 森好男(早) 小杉忠治郎(同志) 奥野良(早高)
- 200米自由形  
2:24.4 高石勝男(早) 木村象雷(早) 小杉忠治郎(同)
- 400米自由形  
■ 5:10.4 高石勝男(早) 入谷唯一郎(同) 菅沼豊(關)
- 800米自由形  
■ 11:18.0 入谷唯一郎(同) 宮下利三(北) 藤田明(早)
- 100米背泳  
■ 1:17.0 木村象雷(早) 宮下利三(北) 伊丹(横工)
- 200米平泳  
3:07.4 山本盛光(早) 石田恒信(關) 邦田(彦商)
- 200米リレー  
1:54.1 早高チーム(奥野、木村、森、高石) 同志社、關西學院、北大
- 800米リレー  
10:25.4 早高(木村、藤田、森、高石)同志、關學、北大
- 得點 59早高 26同志社 13關西學院 13北大 2横濱高工 大阪高商 彦根高商 1濱松高工

## 第五回全國女子水上競技大會(8.5芝)

萬朝報主催の例會である、連勝京武軍は入江廣子を陣頭に立て新進中村由紀惠を起用して堅陣を誇り、前年まで同軍の主將たりし永井花子は此回濱寺水練校に屬して之れを率る一擧に京武の牙城に迫らんとし、多年雌伏せる關東軍は江島歌子の率る京橋教育會及び御子柴初子の率る東京婦人協會の各チームが遠征軍を迎へて必勝の意氣に燃えてゐる。折から天空一碧、女流選手の活躍を見んものと觀衆は續々とつめかけた。當日の決勝成績は

- 50米 37.0 鷺見 芳子(京武) 永井 花子(濱寺)  
島村 初枝(京武) 宮崎百合惠(修武)

- 100米 1:31.0 藤井千代子(京武) 佐野 綾子(京武)  
島村 初枝(京武) 鷺見 芳子(京武)
- 400米 7:14.0 入江 廣子(京武) 藤井千代子(京武)  
中村由紀惠(京武)
- 800米 15:23.0 入江 廣子(京武) 江島 歌子(京橋)  
中村由紀惠(京武)
- 100背 1:45.4 入江 廣子(京武) 鷺見 芳子(京武)  
五月女年子(御幸) 荻野きみ子(平野)
- 100平 1:45.2 布施 苑子(京武) 大久保たか子(御幸)  
佐野 榮子(濱寺) 武塚 勝子(濱寺)
- 200米リレー  
2:38.4 (1) 京都武徳會(島村、藤井、入江、鷺見)  
(2) 濱寺水練校(鹽澤、多田、武塚、永井)  
(3) 東京婦人協會(ドロシー、小坂、市口、御子柴)  
(4) 京橋教育會(飯沼、與水、南、江島)

かくて京都武徳會の連勝となつた。前年度の記録は破り得ざりしも、參加者の熱泳は女子競泳の向上を暗示するものとして尊い收穫であつた。番外として高石勝男、西本龍三及び益田弘、日活入社の淺岡信男の游泳があつて盛況裡に閉會したのである。尙此の大會の成績により八月中旬行はれる全日本選手權大會の關東出場者を推薦決定した、即ち宮崎百合惠、江島歌子、大久保たか子、五月女年子、荻野きみ子の五名である。



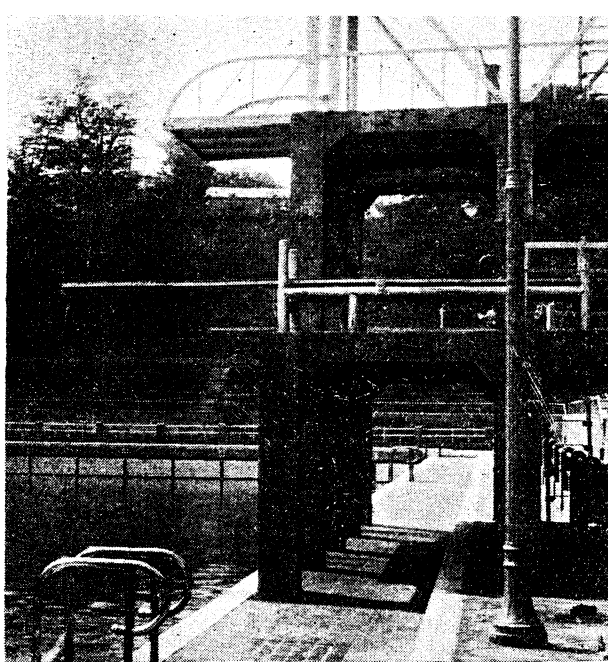
## 濠洲で逢つたジャン・タリス 清川談

相變らずのバリジャンである、最初ビックリしたのは羅府で見たあの妙なフォームがすっかり變つてゐた事だ。體位は矢張り前の様だが、手の運び方がすっかり變つて曲げて持つて行く。本人の談では『佛蘭西に歸つて四ヶ月ばかりジャパニーズ、クロールを研究したが、結局歐洲人にはジャパニーズ、クロールは眞似られない事を知つて、色々研究の末、今のフォームを造り上げた』と云つてゐた。

ビーチング競泳がとても得意でエキジビションにはいつも濠洲のあまり早くない選手を足だけでヒネつてヤンヤと喝采されてゐた。併し樂屋で相手の選手に『俺より先きに行くな』と言ひ含めてゐるのは全く微笑ものだつた。

# ●水泳地方色●

横濱



## 横濱水泳協會を語る

白山源三郎

横濱水泳協會お國自慢は古今東西に互る。先づ古い所から始めると明治の初年墨田川水練場の猛者と外人團との競泳の行はれたのは横濱であつて、之をしも云ふなら日本最初の國際水上競技に競技場たるの榮譽を擔つたのである。

爾來、生麥、子安、神奈川、木牧、根岸、磯子と横濱を巡る海岸に幾多の水練場が出来、多數の水泳選手を生み出した事云ふまでもない。内でも忘れる事の出来ないのは鵜飼彌三郎選手である。鵜飼氏は日本水上競技史の第一頁を飾る人であつて、あの巧妙な扇子返し片拔手を以て大正二年第二回極東オリムピックに上海で、又大正五年東京で其の勇名を歌はれ日本水泳を中外に知らしめたものである。後の高石にも牧野、北村にも比すべき人である、其後水泳界に餘り顔を出されなかつたが惜しい事に二年許り前横濱で夭折された。古いついでに古くて新しい所に日本泳法の名士を紹介せねばならない。神傳流ではボートの方で餘りに有名な大森芳夫氏、神傳流と小堀流で且ては第三回極東大會に日本代表選手であつた船越重勝氏、小堀流八代の師範城義核先生の高弟鳥海他郎氏等が控えて居られることは餘り知つて居る人があるまい。他にも隠れたる泳士は恐らく豫想外に多數に上ることと思ふ。

横濱水泳協會の歴史は昭和二年に初まる。安部、石毛兩君を音頭取とし集つたものは岡田、吉本、川口、外川、木島、丹下、白山、後に大河原、中島(舊姓五味)等々で其他に中學生大勢と云ふ譯、名を見渡しただけでも日本水上聯盟に數名の人々が缺席して居るのかと見える位の闘士揃である。O.B.の纏りと實力では今でもどの地方とも決して負をとらない自信がある。試みにウオターポロか對抗競泳を申込んで見たまへ、相手に少々インチキ O.B. が居ても黙つてやつつけて見せる。

協會今日の隆盛の原因は組織の單純と人の和とにある。協會には會長がない數人の理事と其内二三人の専務理事があるだけである。會則はあるけれども必要がないと知らない。スポーツの會では組織が大仰だつたり會則が六ツケ敷い時は失敗だと云ふことを皆よく知つて居る。それで居て海水浴場、水練場等の連中からは水上競技に関する限り一指も觸れさせない。一方又縣や市から絶體信頼されて居る(別に自慢にならないが)縣、市と常に争つて居る協會のあることを聞くが横濱では絶體にそんなことはない。縣では水泳に関する限り禮を厚ふして協會に一任する

その代り協會に於ても勞力を惜まず世話をするに於て居る。最初から學務部長などに金を貰ひに押掛けて麻雀をして夜更にしたのがもとであるかも知れないが、實際は統轄團體として必要な仕事はどんどんして居るのは確かだ。市では體育協會の水泳部を一任されて居り、市の水泳大會は全部協會でやる。プールは市土木局の管轄であるが之も水泳教授の實權は協會に托されて居て、土木局としても喜んで居る。吾々も自分のプールの様な氣持でハビヨツテ居て何の差障りもない様である。

O.B.の面々の勇名、悪名は一々紹介する必要もないであらうが書きたい事も多い、茲では一、二に止める、石毛マーチヤンが木島君の令妹ピアニスト芳子さんと先日結婚された、琴瑟相和すと云ふが才人マーチヤン、ピアノに和するに何を以てするか見物である。岡田さんも近い事であらう。岡田さんはプールのボスである。濱のヨタモンもムツツリした岡田さんの顔を見たゞけて縮み上り、プールの風紀は極めてよろしい。之を助ける女房役が我が愛するターヤン外川君であつて、水泳協會の一切の仕事はターヤンの細かい親切な世話によつて進んで居るのである。中島君(舊姓五味金司君)が初代早大背泳選手でインターカレヂに活躍したことを思出す人は少なくあるまい。今も益々元氣である昨年は市民大會に筆者と三十歳以上五十米競泳に最初の覇權を争つた、好漢よく筆者を追つたが、終に三十三秒の吾輩に僅かの差で惜敗した。因に本年は三十歳以上のフレッシュマンが出来るので筆者の選手權も稍危い、敗けるのは残念、棄權は業腹、そこで三十五歳以上と云ふ新種目を案出することにした。(大向より「役目横暴」の聲ありか) O.B.で是非とも内々教へて置かねばならない事がある。神宮プールで一度でも大競技を見た程の人は時計臺の下あたりから場内に響き渡る應援の獨特なる美聲に接した事があるであらう。そして其の主に一度會ひたいと思つたに違ひない、あれこそは吾が大河原君の發する所のものである尤も大河原君に會つて此人ぢやあるまいと疑ふかも知れないが、絶對に嘘はない。

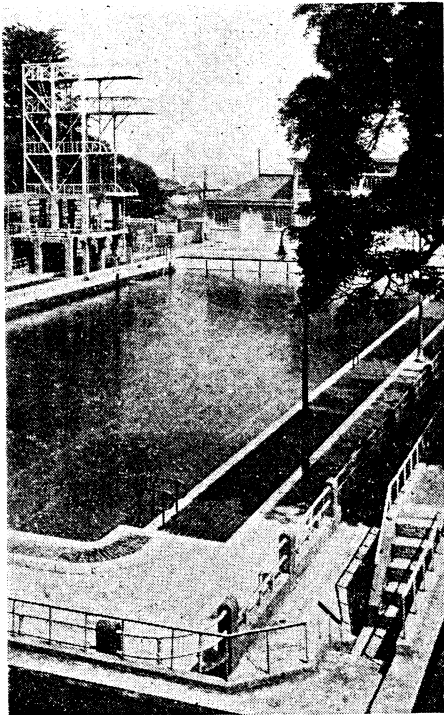
元町プール(正しくは横濱市水泳場)は吾等の誇であり、

横濱の誇りである。有吉元市長が好んで客を案内した名所でもある。環境の美は確かに日本中右に出るものはないであらう。自然の美を損はず然も練習場及び競技場としての条件を完備して居る、昭和五年の竣工で當時の公園課長井本政信氏殊に現公園課長村田登見氏（トミと讀むそうだが男子である）の苦心の傑作である。其の後各地のプールにどれだけ模範とされた事が判らない。緑の芝と闊葉樹、之に對照する赤タイル、見る人をして必ず讚嘆之を久しふせしむる。飛込臺は練習用として十二米と云ふ高さの規定の最高限度を持つ日本唯一のものである。墨田公園で之に負けない爲十二米半としたとの事だが一寸アクドイね。

プールの常任監督を星さんと云ふ、名ほどの美男子とも思はないが、**シンセチ**な人だ、鈴木君と云ふ技手が居て名譽ある土木局代表選手になつたが、筆者の三十三秒を非常に氣にして居るから今年は對抗仕合をせねばなるまい。同じく松澤君と云ふ書記が居て「東京に俺の偽物が出て終にロスアンゼルスまで押し出して怪しからん」と頻りに憤慨して居たが之は酔つた時の事だから勘辨願ひたい。

今泳いで居る人としては決して質と量に於て他に劣る所はない。石毛、岡田、外川、木島の闘將を出した後を享けて丹下は横商、Y専、法政と相當永く第一線に立ち、極東選手にも選ばれた。今は兜町に其の天才を早くも現はさんとして居る。今一人極東代表の鬼才に早川君が居る。五十米だけ馬鹿に強い如く何事にも特徴のハツキリした快男子である。早大の坂上君と富永君を茲で紹介することが出来る。併し餘りに有名であるから止すが、日本最初の都市對抗と云ふ名古屋、横濱對抗に坂上が一度出たことがある、その時の坂上對志村の一戦位面白い試合はなかつた、もつとも面白いと云ふのは半分以上陸上での兩雄の舌戦を加へての事である。

實際今泳いで居る所では長距離に寺崎、須崎、西田、鈴木を擧げる事が出来る寺崎は偏食を治して今年は少し變るだらうまだ未知數である。クモスケ須崎、鬚ては先輩石毛君の後繼である。折角昨年一段進境を見せたのに卒業は惜しい。西田は自信に充ちた選手、有望である。進學と練習に煩悶する事になると思ふが水泳の未來には惜しいものがある。鈴木次郎も秀才である從而頭の選手である。昨年は背泳を泳いで早速インターミドルに入選すると言ふ巧妙さを持つて居る、西田と共に水泳の方にも力を入る様願ひたい。頭と術とを兼ね具へた選手の多い事が横濱水泳協會の一つの自慢であり、輝しい將來を約されて居る所以である。業半にして去つた惜しい人間に勝久重藏が居る。兄よりも力があるのだが餘りに律氣過て自ら退いたのは惜しい。此男大きい



エピソードを一つ残して行つた。或茶話會でオ尻に紙のついたカステラが出た、田舎から出たての正直な勝久君少し變だとは思つたが其の儘喰つて了つた。後で聞いて「そうか、あれは紙か、堅いと思つた」幾つ喰つたかと問へば「三つ喰つちやつた」

背泳にはY専の大島、高工の埜の双壁が居る。互によい敵であつた。今年は埜の獨舞臺か。平泳は稍淋しく川島、井上と云ふ所で川島が三分の關門に近付いたが商工實習を卒業する惜しい事だ。水府流の本場から來た高工の服部君五十米二十八秒臺確實である。インターカレチ一部の五十米に強豪の中に伍して兎に角決勝六人の中に列する。其の健氣な奮闘振は眞に意氣の人と云はねばならない。

横濱市内競泳の華は市内五つの専門學校の試合、横濱學生水上競技聯盟大會である。元町プール春のシーズンは之の合宿練習で持切りである。そこにはエピソードとロマンス、あらゆる豊富な話題が生れ様ではないか、然し最早之を紹介する紙數がない。

「メロチヤン」と云ふ名が餘りに多く叫ばれる。其の管で此名で呼ばれる女性が三人居る。第一世が石毛新夫人芳子さん、次が偉大なる體軀の持主背泳の選手藤田芳子さん本名が同じなのも奇縁である。第三世は第一世芳子さんの妹悦子さん、小學校大會で東都の少女選手達を一蹴した人が之である。「シーチヤン」は河村静子さん、底力があつてラストに觀衆を喜ばす癖があるが、冗談でなくてどうしても初めはスピードが出ないのだそう。近眼だから遠慮して泳ぐのではない、キーチヤン、ミツチヤン、テコチヤン三姉妹どれが姉でどれが妹だとよく問われる程揃つた須藤三選手、お父さんがフアンであり、コーチである朗かな姉妹、まだまだ三人とも伸る。

十二米の飛込臺を圍んで群るダイバーの内には、芥川、佐藤、齋田、石渡、等の名高い名も見出す。若い所では小倉君なども知られた所である。Y.D.C.の一團は熱心に練習をして居る、唯氣分を一新しないと日本飛込界への進取も程遠い。

最初に古今、東西と云つたが、西の事を書かねばならない西洋人の多い事之こそ何所の協會にもプールにも見出せない一事であらう。日本一美しいプールに青や赤の水衣を着た外國婦人が入り混つて泳いで居る光景は横濱でなければ見られない所である。ウオターポロの好きな外人にダウン、フィグス、フアハトマン、ラフィン、等々、常連が少なくない。或る一外人醫師は必ず毎日一定の時間に自動車で來て飛込んで三十五米程泳いで左側から上つて周圍を一回廻つてシャワーにかゝつて服を着て歸ると云つた人もある。有名なオールヤンも久しく吾等と共に泳いだが今は確か北海道に居る筈。

# 昭和九年度飛込五傑

## 男子飛板飛込に於て

- 1、生江哲太郎は全國學生にて第2位(111.34)なりしも日本選手權に出場せざりし爲表外
- 2、原秀夫、原西三の順位は日本選手權の順位に従ひたり。(原秀夫日本選手權125.30關東予選114.78原西三日本選手權124.20關東予選119.58)

## 男子高飛込に於て

柴原は全國學生のみなり。岩切、林は全國學生及東海の成績を斐せり。

### 男子飛板飛込

- 1、柴原 恒夫(日 大)
- 2、原 秀 夫(昭和肥料)
- 3、原 西 三(南洋検査)
- 4、杉原 雪夫(慶 大)
- 5、石川 金繼(明 大)

### 男子高飛込

- 1、原 秀 夫(昭和肥料)
- 2、柴原 恒夫(日 大)
- 3、岩切 盛行(明 大)
- 4、林 慶二郎(明 大)
- 5、杉原 雪夫(慶 大)

### 女子飛板飛込

- 1、香野 夫佐子(甲子園)
- 2、大澤 政代(F. D. C)
- 3、島崎 惠美子(ナ シ)
- 4、松本 初子(F. D. C)
- 5、横山 周子(甲子園)

### 女子高飛込

- 1、香野 夫佐子(甲子園)
- 2、大澤 禮子(美津濃)
- 3、林 悦子(九段精華)
- 4、島崎 惠美子(ナ シ)
- 5、大澤 政代(F. D. C)

## ● 消息欄 ●

毎年の事ながら、新入生の便りは、シーズンの近きを想はせられる。是までに聞き得た消息は。

早大、【自】三好(小牧中) 武藤(京城) 金子(九州) 平谷(京都) 【平】田口(臺北) 【飛】小柳(大阪)

慶大、【自】寺田(見中) 島本(和歌商)

明大、【自】長谷川(修道中) 【平】仲村渠(沖繩水産) 野田(長崎商)

立教、【自】大崎(日大中) 田口(同志社)

日大、【自】正木(修猷中) 【飛】細谷(日大中) 毛利(府一商) 大高(京城)

法政、【自】半野(福島商) 田中(三條中) 浅野(千葉中)

東大、【自】後藤(一高) 瀧藤(一高) 守井(八高) 近藤(八高) 【背】大村(佐賀) 【平】堀内(八高)

横商専、【平】菅野(門司商)

關東學院、【自】柳田(逗子開成) 森(宮津中) 今澤(逗子開成) 澤田(三浦中) 【背】北島(京二商)

名高商、【自】横山(高知商) 森(靜中) 夫々所を得て今夏の活躍更なるものがある。

此の春、日度多く除隊された人達に米山弘君、早大出) 平泳の藤本敏郎君(早大出)水球の上野克己君(早大出)竹林隆二君(早大出)飛込の西海土孚君(早大出)大湯富士夫君(東大出 太田豊明君(大阪帝大出)の七君が居られる。除隊後上野は従前の大阪電気軌道(住所奈良市南半田町紅梅館)に、竹林君は郷里の母校中泉農學校に教鞭を採られ、西海土君は従前の遞信省に、大湯君は横須賀海軍工廠造船部(住所神奈川県逗子町山ノ根373)に、太田君は従前的大阪帝大醫學部小澤外科に、夫々務められたもとのカツバであり社會人に還元せられた。

役員の移轉では、理事の澤田武治氏が世田谷區東玉川町138に、木村象雷氏が赤坂區青山南町5の45に、水球委員の藤田明氏は兵庫縣武庫郡精道村打出字野田1に、飛込委員の奥平俊二氏が兵庫縣武庫郡瓦木村高木字西犬飼367の1に、標準泳法の渡邊延氏も豊島區長崎仲町1の2408に移轉。女子役員移轉では、島村初枝さんが京都市紫竹初音町152に、高橋芳子さんが淀橋區下落合2の752に、近藤花子さんが平壤府山手町32に移轉された。

水泳史研究會は此の程、服部奉公會より二千二百圓の援助を受けて、創立

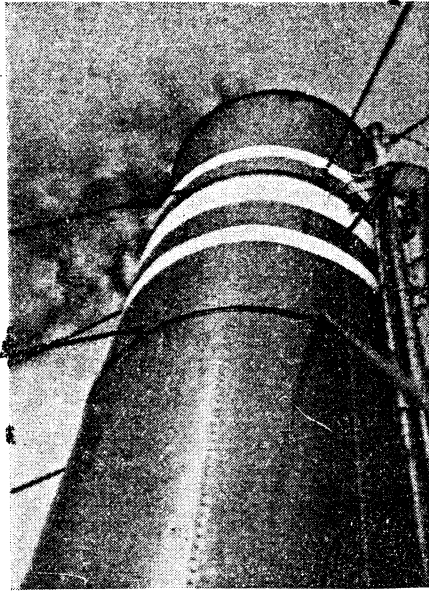
來研議を重ねつゝあつた水泳史の研究成果を刊行する事に決定し。目下編纂中であるが、彙版にして八百頁に餘る大冊になるとの事である。

例年本聯盟編にて目黒書店より出版してゐた『水泳指導要項』は、本年より、各部門分冊して出版する事になつた、其の一着手として標準泳法の部門は各泳法を夫々の擔當者に依つて、詳細な説明を附した物を出版する事に決定。

〔14頁伯林ニユースより讀く〕6箇の新日本記録が登録された。日本チームの主要勢力たる水泳選手達は、マニラの極東競技を最大の試練として、廣般な、固有の練習プログラムを計畫した。恐らく伯林に對する最後の嚴選は1935年の明治神宮競技であらう。

陸上も之に劣らず新らしい意氣込みで素晴らしい計畫が已に昨年より實行され、今年も、35年も繰返されるであらう。

日本の進歩を考へる時、1936年には多くの新選手の出現が期待される。日本民族の原動力と並行して様々の記録が伯林には見られるであらうが、現在に於ては外國からは算定し得ない。



ソビエト露國の新人

凡そ水上競技にその名を見たことのないソビエト露國では背泳に素晴らしい新人が出現した。最近のモスクーの25米水路で行はれた競技會に於て200米背泳で優勝したポリソツフがそれでそのタイムが2:33.8と言ふから大したものである。因に世界記録はコジヤツクの3:32.2であるが例のヴェンデ、ウエーが非公式乍ら2:27.6を出してゐる。

### 不気味な米國の活躍

米國ではフィツク、ウエー等恐るべき新人が箭の様に出てきて我々を冷々させてゐるが又々、テツクス、ロバートソンなる選手が440碼を4:51.0で泳ぎフランク・バーナードとショーをつけたくなる様な新人が220碼で2:17.2を出したさうだ。

本年度の我が國シーズンが開かないので何とも言へぬが明年を前にして一寸緊張させるニュースである。

### 濠洲ライアン選手隱退か

濠洲水泳界の巨人ノエル、ライアンは昨年突然結婚して1935年は競技に出ない旨を聲明した。チャールトンも一度こんなことをやつたことがあるからライアンが完全に隱退したものと考へるのは早計であらうがベルリン大會では前程の活躍は出来まい。

### 和蘭娘子軍意氣軒昂

1932年の羅府大會米國豫選でエリナー、ホルムが100米背泳で1:20.0を切

つて驚かしたのはもう昔の話、和蘭のマステンブロークは1:16.3(25米水路)といふ男子も一寸手の出ない記録を見せて氣を吐けば、ホルムも負けずに1:17.2(25碼水路)を作つてこれに對抗した。何れにしても此の二三年間の和蘭娘子軍の意氣天を衝くものがあり、木靴をはいて風車の下に戀を囁くオランダ娘に此のエネルギーありとは、一寸腑に落ちない。ついでマステンブロークは例のウーデンを自由形100米に於ても1:06.1で破り200米背泳では2:49.3の世界新記録を作つた。

### 獨逸強し!?

伯林オリムピツクに備へてお膝下の獨逸では、度々豫選を行つて候補を選んでゐるが、三月十六日ヂツセルドルフで行はれた、水上競技豫選の結果を在獨の鶴岡氏より便りがあつた。尙オリムピツクプールの工事はその後餘り進展してゐないとのことであつた。

### 男子100米自由形

1. Fischer-Brehmen 58.6(新獨記)
2. Heibel-Brehmen 60.1

### 200米自由形

1. Müske-Waspo-Stetlin 2:18.0
2. Heibel-Brehmen 2:18.8

### 100米背泳

1. Schwarz-magdeburg 1:11.0
2. Küppers-Brehmen 1:11.4

### 200米平泳

1. Sietas-Hanburg 2:42.4(世記)
2. Schwarz-Geppingen 2:44.6

### 女子100米自由形

1. Arendt-Charottenburg 1:09.8
2. Ohliger-Düsserdorf 1:10.0

### 100米背泳

1. Arendt-Nixe 1:22.8
2. Heiling-Dortmund 1:22.8

### 200米平泳

1. Genenger-Krefeld 3:00.8(歐記)
2. Wollschläger-Duisburg 3:05.8

### 飛込コールマン嬢の外科手術

世界女子飛込界の第一人者であり、アムステルダムとロサンゼルスで華々しい活躍を見せた米國のジョージア、コールマンは最近外科の手術を受けたさうである。目下恢復中ではあるが、飛込の權化とまで言はれる彼女の美しいダイビングを見るのは大分時間がかかりさうである。

### フィリツプス夫人はまだ泳ぐ

これも且つてアムステルダムの100米背泳で優勝した和蘭のマリーブラウン嬢は二年前結婚してフィリツプス夫人となつて以來、競技界を遠ざかつて居たが、最近の情報によると相變らず泳ぐことは止めないのみか來るべきベルリンの大會には和蘭娘子軍の爲に戦ふ元氣を持つてゐるとのことである。

### 新型バタフライ平泳の下馬評

米國の平泳新人ビヨン、ヒツギンスが新型“バタフライ”なる泳法で1:11.6の世界記録を作つたことは新聞でも報導されたが、歐洲の専門家達は次のベルリン大會では此の泳法が用ひられる可能性ありと見てゐる様である。併し100米に於て而も短水路で有効ではあるがオリムピツク種目の200米では有効ではあるまいといふ意見を持つてゐることは我が國と一致してゐる。

### 佛國女子水泳界の活況

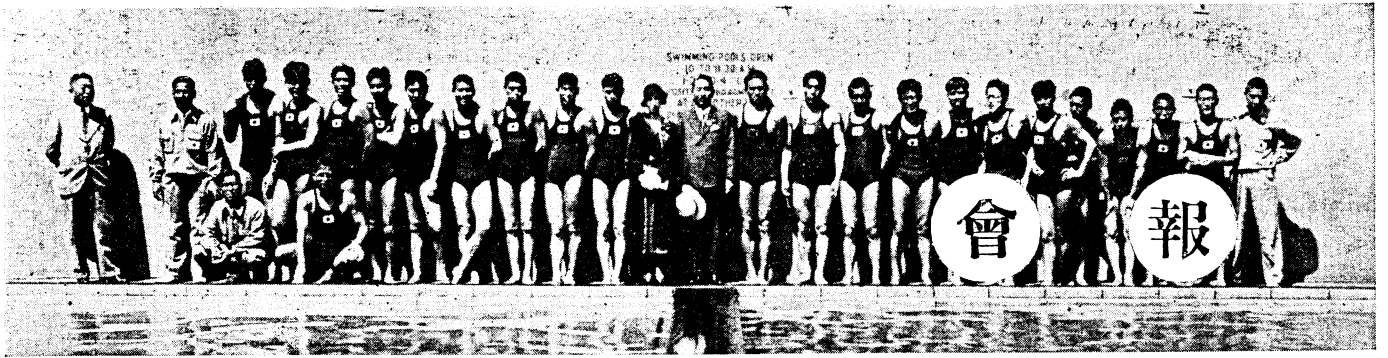
佛國の女子水泳界はイボンス、ゴダールの負傷以來沈黙を守つて來たが最近、次の様なニュースがあつた。

100米自由形 1:09.4 ブロンドー姉

400米自由形 5:39.0 ザルガドー

100米背泳 1:19.2 ブロンドー妹

何れも巴里の25米水路で作られたものであるが佛蘭西は此の記録に依つてベルリン大會に於ける活躍を豫想してゐる。



## 昭和十年二月十三日 理事會議事録

出席者、名譽主事 松澤一鶴、名譽會計 奥野良、顧問  
田畑政治、理事 島崎保正、吉本祐一、渡邊寛二郎、  
白山源三郎、安部輝太郎、野田一雄。 以上九名。

### 報告事項

一、ブラヂル國海軍體育協會よりの招聘に應じ本聯盟より派遣せる齋藤巍洋氏、同國大使館に安着の報、東日宛にありたる旨、松澤主事より報告。

二、安部外國關係委員よりの報告。

1. 今夏計劃の日米對抗米國水泳選手招聘の件に就いて昨秋よりA.A.Uに接渉を重ねた結果、本年の二月二日に至りA.A.U主事フェリス氏より一月十五日附をもつて下記の如き正式受諾の通牒を受けた。

「A.A.Uは昭和九年十二月七・八・九日フロリダ洲マイアミに開催せる年次總會に於て、オリムピック前年と雖も日本よりの招聘に應じて差支へなしと決議し、外國委員より正式受諾の手續を取る事になつた。細目に就いてはキツパス氏より後便の管、尙ほ右件の可決されるに就いては、一九三七年(オリムピック翌年)に今回の返禮として日本水上チームの招待にN.S.Rの受諾を願ふと言ふ條件の下に可決されたものである」

是に對し本聯盟はA.A.Uに

「右受諾に對する謝意、及び一九三七年の日本水上チーム招待に關しては、期日の都合さへ良ければ受諾して差しつかへない」旨返信した。

2. F.I.N.Aより「今般、オーストリア、オーストリア、チエコスロバキヤ、エストニア、ギリシヤ、ポルトガルの六ヶ國は加盟年金未拂の廉を以て加盟權喪失せるに付、今後は非加盟國として國際競技出場權なきはもとより加盟國との競技も許されざる故、N.S.Rに於かれても左様注意あり度し」との通告を受けた。上記加盟權喪失國中にオーストリアが含まれて居り、同國には目下本聯盟より坂上、清川兩選手が遠征中である故一應F.I.N.Aに對し「目下、本聯盟よりオーストリア

に選手を派遣せるも、オーストリアの加盟權喪失以前に派遣爲せるものなる」由、通達し、一方オーストリアにF.I.N.Aへの通達の寫本を添へて、加盟權復活の勸告をして置きたる旨報告。

3. ポーランドより今夏日本水上チームの遠征方を希望せる來簡ありたるも、今夏は之に應じ難しとの然るべき返信をなせる旨報告。

三、ブタペスト世界學生運動競技會よりの全國學生水上競技聯盟に對する出場勧誘の件は、同聯盟に移牒され、二月七日の同聯盟總務委員會に於て、之に應ぜざる事に決定せる旨、渡邊同聯盟主事より報告。

四、全國學生水上競技聯盟組織改造の件に就き、昨秋來同聯盟特別委員會を編成して奔走の結果關西、東海の賛同を得て、本年度全國學生水上競技會は招待の形式を以て東海、關西、兩聯盟の参加を求め、その際の合同會合に於て全國的統一の組織を協議結成するの運びに至り。合同會合にて附議さるべき組織改造の草案を同聯盟實行委員會にて作成せし旨、渡邊同聯盟主事より報告あり、更に松澤主事より、右草案の骨子は各地方の参加學校數を基準とし、更らに實力を加味せるものなる事を説明。

五、二月七日の全國學生水上競技聯盟總務委員會に於て、本年度の全國學生水上競技會期日は九月十四、十五日に同關東豫選會は九月七、八日に決定。尙ほ關西、東海豫選の期日は目下兩聯盟に問合せ中なる旨、渡邊主事より報告。

六、日本運動競技聯合、大日本體育協會との合流の件に就いて松澤主事より、吾國の各種運動競技の統轄團體をもつて決議機關とする綜合運動競技團體の設立を提唱し、日本運動競技聯合創立來大日本體育協會に接渉を重ねて居つた所、大日本體育協會は昨秋より、日本運動競技聯合の申出に對する小委員會を設けて之を圖る事となり合流に關する具體案を作りつゝあつたが、一月二十三日の體協評議員會では『日本運動競技聯合の根本義には賛成なるも、體協は存置して、體協を寄附行爲改正によつて日本運動競技聯合と同様の組織にすべし』と言ふ意見であつた。茲に於て日本運動競技聯合は區々たる名稱には拘泥せず、體協の組織を根本的に改造し、日本運動競技聯合の組織と同様にすべしとの體協評議員側の意見を採り

體協寄附行為改正に着手し、體協改造の實現を見る迄、日本運動競技聯合は存置して嚴に之を監視する事になつた。目下體協は寄附行為改正委員會を設置して改造實現に進涉中であるが、結局、本聯盟が主導的立場にあつて日本運動競技聯合を創立した理想通りに進涉しつつあり、更にその實現も近きにある事、説明並に報告。

#### 決定事項

- 一、本聯盟として大日本體育協會への加盟年金二百圓（昭和八・九年度分）は、日本運動競技聯合との問題にも關連せる故一應同聯合と相談の上、原則通り納入せる件に就き、承認。
- 二、一月二十三日の日本運動競技聯合理事會に於て同聯合加盟團體は加盟年金三十圓納入すべく決定せる件に就き本會之を承認。
- 三、本年度各競技會のスケジュールは大體決定せるも、尙ほ未決定の各校の對抗競技會、全國學生水上競技會の關西、東海豫選、神宮大會の期日等あり、それ等競技會期日決定の上、全部線轄して本年度水上競技會スケジュールとして公表する事に決定。尙未決定の競技會期日に就き協議の結果。
  1. 本年度開催せらるべき第八回明治神宮體育大會水上競技會の期日は至急青年團及び海軍と交渉の上決定する事、本聯盟としての大體の方針は伯林オリムピツクの低溫度に備へるの意味を以て、十月の月上旬とし、オリムピツク第二次豫選とする事。
  2. 女子關東、關西、中部三地方對抗水上競技會は本年度は日米對抗競技會中に入れて行ふ事、同豫選は日本選手權地方豫選に入れて行ふ事に決定。
  3. 飛込、水球競技の日本選手權大會の期日は兩競技委員會に附議の上決定する事。
- 四、日米對抗水上競技會に招聘の米國選手の便船、滞在期日、旅費概算等に就いては安部、田畑、兩氏に於て更らに研究する事に決定、なるべく滞在期日を短期にすべくN.Y.Kラインのみでなく他の汽船をも考慮して調査の事。
- 五、日米對抗水上競技會に要する費用の一部を寄附に仰ぐ事。
- 六、日米對抗水上競技に就き已にA.A.Uよりの正式應諾を受けたる上は本聯盟として同大會に對する具體的準備に着手の要あり、四月學生役員の改選を待つて準備委員會設置の事。
- 七、本年度切換への本聯盟發行神宮水泳場指定席。(昭和十年・十一年分)金額二十圓と決定。
- 八、第十二回オリムピツク大會招致運動に關し、松澤主事より、伊太利の讓歩により東京開催説據に有望になり、杉村氏オスローに出發せる旨の報告あり。
- 九、一月二十一日に急逝された椋山女學園の鹽見梅子嬢に本聯盟より哀悼の意を申し送つた處、遺族方より挨拶の返禮があつた旨報告。以上。

昭和十年四月四日

#### 常務理事會議事録

出席者、名譽主事 松澤一鶴、名譽會計 奥野良、顧問 田畑政治、常務理事 西本龍三、渡邊寛二郎、根上博、以上六名。

#### 議 事

##### 一、明治神宮體育大會水上競技の開催方針

1. 期日は青年團・海軍との打合せもあり、未だ確定せざるも本聯盟としては十月の四・五・六日の三日に互つて開催の事に内定。
2. 神宮競技をオリムピツク候補第二次豫選として行ふ事。
3. 青年團並に海軍の競技種目は従前通りにする事。
4. 一般競技は種目を重ねざる方針なるも、郷土リレーは今後の同大會競技會形式の爲めにも、無理にならざる様、プログラムに入れる事。
5. オリムピツク第二次豫選として廣く一般新人に登龍の機會を與へる意味に於て、左の新人種目を行ふ。  
男子 自由形 100米 200米 背泳 100米 平泳 100米  
女子 自由形 50米 100米 背泳 100米 平泳 100米
6. 飛込競技は初等競技を行ひ、東西對抗を行はず。水球は中等競技を行はぬ方針。
7. 明治神宮體育大會水上競技に對する同體育會に提出すべき豫算草案に就いて奥野會計より説明あり、協議を行ふ。

##### 二、オリムピツク候補合宿練習の件。

オリムピツクの合宿練習の費用は本聯盟として負擔の方針。

合宿期間は冬期休暇二週間、春期休暇二週間、最終豫選後一週間行ふ豫定。

競泳、飛込、水球の三部門に對する合宿練習の方針は、本聯盟の會計狀態を考慮しつつ、なるべく一視同仁に行ふ方針。

##### 三、外國より來簡の報告。

1. 在獨鶴岡氏より「獨逸水泳界近情」の書信報告。
2. 濠洲ブリスベン市日本人會の酒井氏より、今夏の日米對抗競技に同地の Mr. Homine なる選手を招聘されたき旨來簡ありしも、日米對抗の主旨を誤解せるにより本聯盟よりその主旨をしたため返信する事。
3. チェコスロバキヤより日本選手寫眞の寄贈を希望せる書信あり、本會之を承諾し外國關係委員より適宜發送の事。

##### 四、N.S.R. タオルの件に就き問屋との圖案の交渉を渡邊氏に一任。

##### 五、日米對抗水上競技トロフィーに就いて適當な製作者に依頼の接渉を行ふべき事。以上。



N. S. R. 日 記

昭和九年十二月

- 14日 理事会
- 23日 理事会、水陸兩理事懇親會
- 24日 機關雜誌「水泳」第27號發行
- 25日 雜誌發送、N.S.R.事務所閉鎖

昭和十年一月

- 8日 N.S.R.事務所開始
- 16日 常務理事会

二 月

- 1日 伯林オリムピック準備座談會
- 2日 關東水泳協會主催室内飛込競技會
- 5日 標準泳法委員會
- 13日 理事会
- 27日 標準泳法委員會

三 月

- 6日 記録委員會
- 13日 標準泳法委員會
- 15日 機關雜誌「水泳」第28號發行
- 16日 雜誌發送
- 18日 水球競技委員會
- 22日 飛込競技委員會
- 28日 標準泳法委員會

事務所  
晚翠軒

事務所

事務所  
府一中  
事務所  
事務所  
事務所

事務所  
事務所  
事務所  
事務所  
事務所  
事務所  
事務所

プ ール 公 認 の 件

公認第三十四號 名稱 濱松農蠶學校競泳池  
所在地 静岡縣濱名郡曳馬町  
所有者 濱松農蠶學校校友會  
公認申請者 濱松農蠶學校校友會 横森千代三郎  
公稱距離 長25米 幅13米 水路數6 水路幅2米 水深  
1.5151米-1.7 米出發臺高50厘 水質淡水  
昭和九年十月三日より昭和十四年十月二日まで五箇年間甲  
種競泳池として公認さる。

公認第三十五號 名稱 京都府京都第一高等女學校屋内競  
泳池  
所在地 京都市上京區寺町通荒神口上ル  
公認申請者 京都府立京都第一高等女學校 校長 鈴木博  
也  
公稱距離 長25米 幅9.24米 水路數6 (但し水路の幅  
2米として4ともなし得)  
水路幅1.5米、兩端水路1.62米 (但し、水路數  
4としたる時は2米兩端水路2.62米) 水深1.2米  
-1.5米 出發臺高さ0.42米 水質淡水  
昭和九年十月二十四日より昭和十四年十月二十三日迄五  
年間甲種競泳池として公認さる。  
(新設水泳場紹介と短評欄参照)



編 輯 後 記

今年の花は雨に果なく過ぎ、花のあとに散見する若葉は我々に踴躍を想はせる、シーズンを待つ水泳人に取つては、萌出す若葉にさへシーズンのきざしを感ずる事が出来るからだ。さうだ、是れでカツと照ればもうシーズンが待つてある。

本號は是まで種々試みた編輯様式の長所を吟味採用して纏めて見た。内容に就いては新たな試みとして夫々の部門に就いて現役の言分を開陳して貰つた事。「濠洲行報告」の清川、坂上兩君の原稿は餘りに豊富なので本號と次號に分載を餘儀なくされた。清川君の詳しい記録による轉戦記は水泳同好の士の見落せぬもの、坂上君の隨感はその水の荒武者によくぞこんな筆致を持つてあるものだ、いかめしい同君の顔にもよく見ると鼻邊に可愛い泣ぼくろを見出す丁度あの感じた。水泳地方色として白山氏に横濱水泳協會の種明しをして貰つた、是は段々地方に廻したいと思ふ。

(本號擔當、柴田隆二)

日本水上競技  
聯盟機關雜誌

水 泳

第 2 9 號

昭和十年四月二十九日納本  
昭和十年四月三十日發行

(日本水上競技聯盟代表)

編輯兼發行人 鶴 岡 英 吉  
印刷者 君 島 潔  
印刷所 共同印刷株式會社  
東京市小石川區久堅町10s

定價30錢 年8回發行豫定・8回分¥2.40

豫約申込者に限り頒布す(1年前金豫約  
は送料不要)

廣 告 料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル805  
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所  
振替口座東京三九九一九番